

V. 教員の研究教育・社会貢献活動

(2023年4月1日～2024年3月31日)

【超領域文化論講座】

ガデミ アミン (GHADIMI Amin) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉超領域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-Based English)、総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代日本のグローバル思想史

[研究業績]

〈論文〉

・ Amin Ghadimi, "Civilization and Enlightenment in Early Meiji Japan," *The New Cambridge History of Japan, Volume 2* (Cambridge: Cambridge University Press, 2024).

・ Amin Ghadimi, "India in the Origins of Japanese Terrorism," *Cultural Formation Studies* 5 (2023): 5-17.

・ Amin Ghadimi, "Shirin Nezamzami and the Unmaking of Postcolonial Japan," *International Journal of Asian Studies* 20.2 (2023): 875-893.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Amin Ghadimi, "On the History of Spirit in Early Meiji Japan," Seventh European Network of Japanese Philosophy Conference; Cork, Ireland; September 2023

〈研究助成〉

・ 稲盛財団 稲盛研究助成「士族反乱のグローバル思想史——神風連の乱を中心に」

・ Friends of Princeton University Library Research Grant, "Leroy Lansing Janes and the Intellectual Origins of the Japanese Civil War"

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究「熊本敬神党の比較思想史」

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉放送大学 講師

北井 聡子 (KITAI Satoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ジェンダー論 A・B、

〈共通教育担当科目〉ロシア語 I・II、国際コミュニケーション演習 (ロシア語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ジェンダー/フェミニズム表象、ロシア文学、ロシア文化・思想、メロドラマ

〈所属学会〉日本ロシア文学会、ASEEES

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Satoko Kitai, "From Siberia with Love: Melodramatic Representations of Russian Female Spies in Harbin" ASEEEES 55th Annual Convention, Philadelphia, Dec 2, 2023.

〈研究助成〉

・ 「近現代ロシア思想における《異他性》の思考：思想史的遠近法の再構築をめざして」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、研究代表者：貝澤哉、課題番号：22H00004、研究分担者

- ・ 「1920年代～30年代ソ連文化におけるジェンダー表象」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究、課題番号：20K12827、研究代表者
- ・ 「ロシア的「個」概念の再検討に向けた分野横断的研究——思想的背景と文化的実相」日本学術振興会 科学研究費助成事業、基盤研究 (C)、研究代表者：大森雅子、研究番号：23K00436、研究分担者
〈調査活動〉
- ・ 19世紀末～20世紀初頭のロシア・ソ連文化におけるジェンダー表象に関する資料調査、
 - ① 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター2023年9月12日～13日
 - ② フィンランド国立図書館、2024年2月5日～11日
 〈国際共同研究実施状況〉
- ・ プロジェクト名：Cultural Formations Studies V (言語文化共同研究プロジェクト2023)、研究分担者
〈主たる実施者となって開催した学会〉
- ・ 日本ロシア文学会第73回定例総会・研究発表会、2023年10月21日(土)22日(日)、富山大学五福キャンパス、大会実行委員
〈主たる実施者となって開催した研究会〉
- ・ 特別講義「ロシアにおけるSFとオカルト、陰謀論—ウクライナ戦争から考える—」講師：宮風耕治、2023年12月15日、大阪大学人文学研究科言文B棟、大会議室B.
- ・ Special Lecture “Affective Historicism in the Pre-War Russian Film” Lecturer: Prof. Mark Lipovetsky (Columbia University), Dec 22, 2023、大阪大学人文学研究科言文B棟、大会議室B
[その他の活動]
〈管理運営〉カリキュラム開発オフィス委員、人文学林学術推進部門、過半数代表者
〈学会活動〉日本ロシア文学会事務局書記、日本ロシア文学会社会連携委員

小杉 世 (KOSUGI Sei) 教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉グローバリゼーション論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉グローバリゼーション論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語圏文学、オセアニアの先住民/移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉日本英文学会 (日本英文学会関西支部)、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan (文学・環境学会)、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK)、国際演劇協会 (ITI)

[研究業績]

〈編著〉 (複数の編者によるもの)

・ 小杉世・加藤めぐみ 編『南半球評論』39号、オーストラリア・ニュージーランド文学会、2024年3月 (執筆箇所：編集後記)

〈編著〉 (複数の編者によるもの)

・ 風間計博、丹羽典生編『記憶と歴史の人類学——東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・移住・他者接触の経験』執筆担当章：第15章「クリスマス島での英米核実験をめぐる記憶——キリバス人の被ばくの「語り」による再構築」風響社、2023年3月、pp. 327-349.

・ 日本平和学会編『平和学事典』執筆担当箇所：第V部 第9章 第12項「植民地主義と文学の想像力」丸善出版、2023年6月、pp. 592-553. (招待執筆)

〈論文〉

・「アレクシス・ライト『地平線の叙事詩』——先住民文学と難民文学をつなぐ水平(地平)線」『Cultural Formation Studies V : 言語文化共同研究プロジェクト 2022』大阪大学大学院人文学研究科、2023年5月、pp. 47-52.

・「キリバス共和国クリスマス島における英米核実験——太平洋の核軍事化と先住民共同体」『日本の科学者』58巻8号、2023年8月、pp. 32-33. (招待執筆)

〈書評〉

・「書評：キャシー・ジェットニル＝キジナー著（一谷智子訳）『開かれたかご——マーシャル諸島の浜辺から』」『オーストラリア研究』37巻、2023年3月、pp. 54-57. (依頼原稿)

〈研究発表・講演・学会報告〉

・“Indra Sinha’s *Animal’s People*: Bhopal, Minamata, and the Pacific Proving Grounds” ASLE (the Association for the Study of Literature and Environment)+AEES (The Association for Environmental Studies and Sciences) 2023 Conference: Reclaiming the Commons, July 9–12, 2023 (発表日: 7月10日), Portland, Oregon.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2020年度～2023年度「環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究」(研究代表者: 松永京子、課題番号: 20H01245、自身の役割: 研究分担者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2022年度～2025年度「豪マイノリティ作家の21世紀の課題解決に向けたネオ・コスモポリタニズム文学研究」(研究代表者: 加藤めぐみ、課題番号: 22H00653、自身の役割: 研究分担者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2022年度～2025年度「人新世の共生をめぐる文学—太平洋島嶼部の先住民・移民文化とグローバリゼーション」(研究代表者: 小杉世、課題番号: 22K00427、自身の役割: 研究代表者)

〈調査活動〉

・キリバス共和国クリスマス島の核実験をめぐる記憶(コロナ禍の出国制限が3年ぶりに解除され追加調査を行った、被爆者協会のコミュニティでのインタビュー、核実験関連施設跡の遺物調査など)

〈国際共同研究実施状況〉

・プロジェクト名: Cultural Formations Studies VI (言語文化共同研究プロジェクト 2023)、自身の役割: 研究代表者(国外の大学に在職する外国人研究者を含むプロジェクト)

〈分野横断的研究実施状況〉

・国立民族学博物館共同研究(プロジェクト名: 日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に、研究代表者: 丹羽典生、自身の役割: 研究分担者)

〈主たる実施者となって開催した研究会・講演会〉

・Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2023年6月3日

・Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2023年9月2日

・Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2023年11月18日

・Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2023年3月23日

・「ピーター・ブロー監督『寡婦たちの村』上映会&トーク」於 大阪大学豊中キャンパス サイバーメディアセンター4階 PLS+C 教室、2023年12月13日、役割: コーディネーター・司会・コメンテーター(共催: JSPS 科研費基盤研究(B) 環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究(代表: 松永京子)、高度副プログラム(阪大 SDGs)「世界の言語文化とグローバリゼーション」グローバリゼーション論 B(担当教員: 小杉)、Cultural Formation Studies 研究会)

[その他の活動]

〈管理運営〉前期日程試験科目別連絡委員会(全学)、融合教育推進部門委員(人文学林)、講座代表者(部内)、部会主任(部内)、入試委員会委員(部内)、施設マネジメント委員会委員(部内)、学部入試新学習指導要領対応ワーキング、高度副プログラム代表者(「世界の言語文化とグローバリゼーション」)

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員長、NZSA (New Zealand Studies Association,

UK) Council member、エコクリティシズム研究学会地区委員

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語選択、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉19-20世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 巻頭随想「フィッシュキン、トウェイン、そしてダンバー」『マーク・トウェイン 研究と批評』第22号 (2023年6月) pp.2-6.
- ・ 「詩人と黒人兵士たち——Paul Laurence Dunbar の時代意識を探る」日本英文学会第95回大会 Proceedings (オンライン・2023年7月4日公開)

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 「詩人と黒人兵士たち——Paul Laurence Dunbar の時代意識を探る」日本英文学会第95回大会 (関東学院大学 横浜・関内キャンパス) 2023年5月20日

〈主たる実施者となって開催した学会〉

- ・ 日本アメリカ文学関西支部支部長として、以下の支部例会の実施責任者となった。
5/6 総会 (近畿大学)、6/10 例会 (大阪大学)、7/22 例会 (甲南大学)、9/30 例会 (同志社大学)、11/4 例会 (オンライン開催)、12/2 支部大会 (京都女子大学)、1/6 例会 (オンライン)

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻 副専攻長

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部支部長、日本アメリカ文学会代議員、日本英文学会本部理事

霜鳥 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉言語文化共生論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏文学・文化における第二次世界大戦の記憶の超領域的研究

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 霜鳥慶邦「ケアに満ちた教養小説——D・H・ロレンス『息子と恋人』における(反)成長物語再考」『人文学林』第1巻、2024年3月、pp.85-105.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 霜鳥慶邦「アリ・スミス四季四部作における〈共〉(コモン)の可能性」、日本英文学会関西支部第18回大会、神戸大学、2023年12月17日.

〈研究助成〉

- ・ 霜鳥慶邦 (代表) 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「21 世紀イギリス文学における第二次世界大戦の記憶の諸相」 2023-26 年度.

〔調査活動〕

- ・ 第二次世界大戦の記憶に関する現地調査 (英国、2023 年 9 月 4 日～13 日) .
- ・ 第二次世界大戦の記憶に関する現地調査 (タイ、2024 年 2 月 15 日～23 日) .

〔その他の活動〕

- 〈管理運営〉 学生支援委員会委員長、教学委員会委員
- 〈学会活動〉 日本英文学会編集委員会委員

鈴木 啓峻 (SUZUKI Keishun) 講師

〔教育活動〕

- 〈研究科担当科目〉 ジェンダー論 A・B
- 〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (ドイツ語)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 トーマス・マン研究、共感と感情をめぐる哲学・思想、近現代ドイツ文学におけるジェンダー表象について

〈所属学会〉 日本独文学会、日本独文学会京都支部、阪神ドイツ文学会

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ トーマス・マン『ヨセフとその兄弟たち』——「個性化とナルシズム」の物語における自己と他者 (阪神ドイツ文学会第 242 回研究発表会)

〈研究助成〉

・ ヴァイマル期の文学と哲学的人間学における〈共感〉の諸相——マンとシェーラーの比較 (科研費研究活動スタート支援)

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

〔教育活動〕

- 〈研究科担当科目〉 言語文化形成論 A、言語文化形成論 B
- 〈共通教育担当科目〉 学問への扉、ドイツ語初級、ドイツ語初級II、ドイツ語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ドイツ近現代史、ドイツと東アジア関係史、植民地研究、神戸の外国人コミュニティの歴史

〈所属学会〉 日本ドイツ学会、阪神ドイツ文学会

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 中村綾乃「西ドイツ政府と「二つの中国」」 (2023 年 7 月 9 日、オンライン開催)

〈研究助成〉

- ・ 研究代表者 科学研究費補助金 (基盤 C) 「ドイツ帝国の南洋統治と日本の植民地政策」 (2020-2024 年度)
- ・ 研究分担者 神戸大学アーバンイノベーション研究プロジェクト「神戸ユニオン教会における歴史資料の調査・分析および観光資源としての活用」 (2022 年 12 月—2024 年 3 月)
- ・ 研究分担者 科学研究費補助金 (基盤 C) 「第二次大戦期の日独関係とユダヤ人問題——「上海ゲットー」の設立を中心に」 (2023-2027 年度)

〔その他の活動〕

〈学会活動〉 阪神ドイツ文学会幹事

西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 グローバリゼーション論 A・B

〈共通教育担当科目〉 多文化コミュニケーション

〈学部教育担当科目〉 東南アジア地域研究概論 (オムニバス形式)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〈所属学会〉 日本国際政治学会、日本平和学会、アジア政経学会、日本政治学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Nishimura, Kenichi, "What Factors Promote Participation in Local Governance: The Philippines as a Case," *Journal of Multicultural Education and Student Exchange* 28, pp. 11-22.

・ Nishimura, Kenichi, "An Empirical Study of the Relations between Residents' Trust and Performance of Local Government: Case of the Philippines," *Journal of Multicultural Education and Student Exchange* 28, pp. 23-34.

・ 西村謙一「フィリピンの灌漑事業協同組合設立事業における政策波及の可能性」永井史男編『政策波及の政治的動態と中央地方関係—タイ、フィリピン、インドネシアの比較— (令和元年度～令和4年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書) 2024年3月、pp. 47-63。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Nishimura, Kenichi, "Resident-government relations and residents' trust in local government in the Philippines," 6th International Conference on Public Policy, June 28, 2023

・ Nishimura, Kenichi, "An Empirical Study of the Relations between Residents' Trust and Performance of Local Government: Case of the Philippines," EROPA Conference 2023, October 18, 2023

・ Nishimura, Kenichi, "What Factors Promote Participation in Local Governance: The Philippines as a Case," Asian Association for Public Administration 2023 Conference, December 16, 2023

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金基盤研究 (B) 令和2年度～令和5年度「東南アジア地方自治ガバナンスと住民意識の分析—インドネシア、フィリピンの比較—」研究代表者

・ 科学研究費補助金基盤研究 (B) 平成31年度～令和4年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係—タイ、フィリピン、インドネシアの比較—」 (研究代表者: 永井史男・大阪市立大学教授) 研究分担者 (繰越)

[その他の活動]

〈管理運営〉 男女協働推進センター会議委員、人権委員会委員

〈社会貢献活動〉 兵庫県立高等学校評議員

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 超領域文化論 A・B、超領域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教

〈所属学会〉 日本西洋古典学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 紀要編集委員会委員長、安全衛生委員会副委員長、研究企画推進委員会委員、国際交流委員会委員

【表象文化論講座】

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代英語圏の文学・文化

〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

〔研究業績〕

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ (単訳) セバスチャン・バリャー『終わりのない日々』白水社

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 「謎解きはいつも楽しい——John Sutherland, *Is Heathcliff a Murderer?: Great Puzzles in Nineteenth-Century Literature*」

『関西英文学研究』17号, pp.77-80.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ (日本アメリカ文学会関西支部フォーラム司会) 「AI と小説との出会い——愛、信仰、アート、そして新たな物語の誕生」京都女子大学において、2023年12月2日

- ・ (オンライン会議) 「ギャディス生誕100年円卓会議——翻訳者による討論」2023年9月3日

〔その他の活動〕

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター言語教育推進部長・カリキュラム委員長

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部運営委員

佐高 春音 (SATAKA Harune) 講師

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉中国語初級I・II、国際コミュニケーション演習(中国語)、中国語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国明清時代の通俗小説

〈所属学会〉中国古典小説研究会、日本中国学会、東方学会、慶應義塾中国文学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 「明清通俗小説に見える諸記号についての小論——文繁本『水滸伝』を例に」(『明清文学論集 その楽しさ その広がり』、東方書店、2024年3月、31-48頁)

〈書評・論評・紹介〉

- ・ (解題) 「水滸伝全本 三十巻(文学部蔵本)」(『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション2017-2023』、2024年2月、40頁)

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 「文繁本『水滸伝』の諸記号について——その概要と版本研究への活用をめぐって」(中国古典小説研究会2023年度大会、2023年12月17日)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉大阪大学言語文化学会委員

田中 智行 (Tanaka Tomoyuki) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国古典文学（白話小説）

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会、中国人文学会

[研究業績]

〈論文〉

・「『金瓶梅』におけるセリフの表現機制——李瓶児の遺囑を中心に」（『明清文学論集 その楽しさ その広がり』東方書店、2024年3月）

〈翻訳・翻訳書〉

・「『金瓶梅詞話』所引「黄氏女卷」訳注稿」（『言語文化の比較と交流 10』、2023年5月）

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「『金瓶梅』と芸能—引用と上演描写」（第67回国際東方学会会議、2023年5月27日）

・「『金瓶梅』中台詞的表現機制：以李瓶児的遺囑為中心」（『世界的《金瓶梅》：訳介與伝播国際研討会』、2023年11月11日）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金（基盤研究C）「全訳と詳注の作成による『金瓶梅』終盤の研究」

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻安全衛生委員長、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員、人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員

〈学会活動〉日本中国学会大会準備委員

〈市民向け講座・講演〉「古典翻訳という冒険—中国四大奇書『金瓶梅』新訳に挑む」（令和5年度高知県立大学公開講座「翻訳の悦び、注釈の楽しみ—いま改めて、世界文学を読む—」、2023年11月23日、高知県立大学文化学部）

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉18世紀ドイツ文学・思想史、村上春樹研究

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、日本ヘルダー学会

[研究業績]

〈論文〉「村上春樹と濱口竜介の『ドライブ・マイ・カー』：小説と映画の比較考察」（大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻『言語文化共同研究プロジェクト 2022「文化」の解読 (23)：文化とコミュニケーション』2023年6月, pp. 35-74)

[その他の活動]

〈管理運営〉全学入試委員

〈学会活動〉日本ヘルダー学会理事

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、地域文化演習（フランス語）

〈学部教育担当科目〉 フランス文学 II 講義 (フランス文学作品研究講義2 / フランス文学作品研究特殊講義2)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 16 世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

〈共著〉

・『仏検公式ガイドブック 3 級・4 級・5 級』2023 年4 月

〈論文〉

・「ロンサール『恋愛詩集』(1552-1553) とニコラ・ドニゾ」『表象と文化XX』(言語文化共同研究プロジェクト), 2023, p. 25-35.

〈口頭発表〉

・L'ekphrasis architecturale dans *La Bergerie* de Remy Belleau (colloque international "L'ekphrasis architecturale dans la littérature du XVIe siècle en France" organisé par Anne-Pascale Pouey-Mounou et Aya Iwashita, 11 月 17 日~18 日、パリ・ソルボンヌ大学)

〈研究助成〉

・科研費若手「フランス・ルネサンス文学における芸術作品の解釈・鑑賞行為の表象」研究代表者 (T1812342)

・科研費基盤 (B) 「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想: 美術と修辞学の創造的共同」(研究代表者 桑木野幸司) 研究分担者

・科研費基盤 (C) 「16 世紀フランスにおけるエピグラム・エンブレム・ソネ: 印刷本としての抒情詩集研究」研究代表者課題番号 (23K004210)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター カリキュラム開発オフィス長

〈学会活動〉 日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員

〈社会貢献活動〉 文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級・II、地域言語文化演習 (ドイツ語)、ドイツ語中級、ドイツ語言語文化演習 (中級継続)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18 世紀詩学史、ドイツ啓蒙主義、自己表象物語

〈所属学会〉 日本独文学会、同京都支部会、日本 18 世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

・「ミルトンから見て取る虚飾的表現と絵画的表現——文学論争の再考にむけて(4)——」『ドイツ啓蒙主義研究 20』(ドイツ啓蒙主義研究会、2023 年7 月 31 日) S.21-50

・「独裁者はいいつ滅びるのか——自己表象物語の書き換えについて (二)」『希土』(希土同人社、2023 年9 月 1 日) 第 48 号 S.2-45

〈研究助成〉

・「ドイツ啓蒙主義詩学史の再記述—模倣・想像・情念の複合性をめぐる概念史として」(研究代表者) 2021 年度~25 年度、科学研究費補助金 基盤研究(C)

[その他の活動]

〈管理運営〉専攻図書委員会委員、CME カリキュラム委員会委員

村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)、総合英語 (Project-Based)

〈国際交流科目担当科目〉近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論と実践

[研究業績]

〈論文〉

・「翻訳手順の「補償」ー 翻訳で失われたものを補うために」言語文化共同研究プロジェクト2022『レトリックと文法』（大阪大学人文学研究科言語文化学専攻、2023）

[その他の活動]

〈管理運営〉全学国際交流委員会傘下 OUSSEP 運営 WG 委員

〈社会貢献活動〉石橋キッズランド代表代行、池田市バリアフリー推進協議会委員

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I・II、ドイツ語中級、ドイツ語言語文化演習、学問への扉

〈学部教育担当科目〉表象文化論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

・山本佳樹「プラッテンバウが運ぶ夢ー東ドイツの住宅政策とゲーファ映画」、『「文化」の解読 (23)ー文化とコミュニケーション』言語文化共同研究プロジェクト2022（大阪大学大学院人文学研究科）、pp.43-53、2023年5月

〈研究助成〉

・戦時下の日本におけるドイツ映画の受容についての研究、科学研究補助金・基盤研究C、研究代表者、2021年度-2024年度

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻長、人文学研究科副研究科長、人文学研究科教学委員会委員長

〈学会活動〉日本映画学会顧問

ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級、ロシア語上級、

[研究活動]

〈研究テーマ〉 比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究
〈所属学会〉 日本比較文学学会、日本ロシア文学会、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA, AAS, ENCLS, ICLA, EAJS

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

“Cultural Interactions between Japan and Russia: The Japanese Perspective.” *Handbook of Japan-Russia Relations*. Eds by Kazuhiko Togo and Dmitry Streltsov. Tokyo: Japan Documents, 2023. Pp. 255-270.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

“Music as an Instance of Postcoloniality: Rethinking the Relationship between Music and Literature as a Point of Resistance.” University of Omolouc. ACAS. Nov. 24, 2023.

“Is Music Universal? – On Mutual Understanding, Empathy, and their Problematics.” The 7th World Humanities Forum. Nov. 8, 2023. Busan, Korea.

〈調査活動〉

[その他の活動]

〈学会活動〉 国際比較文学学会理事、日本ロシア文学会理事、日本ロシア東欧学会理事・学会賞選考委員・会誌副編集長、比較文学会関西支部幹事

〈社会貢献活動〉 2023年第8回「大人の音楽会」を、「響き合う言語・文化・音楽」とのタイトルで主催し、言語・文化・音楽の関係を研究するイベントとして一般に公開した。

渡辺 貴規子 (WATANABE Kimiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語初級選択、フランス語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス児童文学、日仏比較文学、翻訳児童文学

〈所属学会〉 日本児童文学学会、日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、International Research Society for Children's Literature、Association des Amis d'Hector Malot

[研究業績]

〈論文〉

・「大正初期における翻訳少女小説の一樣相：エクトール・マロ原作『家なき娘』の初の邦訳をめぐって」『言語文化の比較と交流』10号、2023年5月、34-44頁。

・「大正期の少女雑誌におけるフランス小説の受容—グザヴィエ・ド・メーストル原作、野村壽恵子訳『シベリアの少女』をめぐって—」『大阪大学大学院人文学研究科紀要』1巻、2024年3月、159-181頁。

〈書評・論評・紹介〉

・連載「対訳で楽しむ『家なき子』」『ふらんす』白水社、2023年4月～9月（全6回）。

第1回「対訳で楽しむ『家なき子』①」 / コラム「19世紀フランス児童文学の隆盛と『家なき子』の誕生」4月号、48-53頁。

第2回「対訳で楽しむ『家なき子』②」 / コラム「『家なき子』の教育とフランスの初等教育」5月号、38-43頁。

第3回「対訳で楽しむ『家なき子』③」 / コラム「明治時代の二つの翻訳」6月号、38-43頁。

第4回「対訳で楽しむ『家なき子』④」 / コラム「家族の描写と『社会問題』批判」7月号、38-43頁。

第5回「対訳で楽しむ『家なき子』⑤」 / コラム「児童の権利と『親権』の問題」8月号、38-43頁。

第6回「対訳で楽しむ『家なき子』⑥」 / コラム「大団円に込められた平和主義」9月号、38-43頁。

・連載「中級者向けヤングアダルトの世界」『ふらんす』白水社、2023年4～9月（全6回の内、第5回担当）。

第5回「フランスの元祖少女小説 セギュール夫人『ちいさな淑女たち』（1858年）」2023年8月号、30-31頁。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「大正初期の少女雑誌『新少女』における西洋文化の受容—フランスに関する記事を中心に—」、日本児童文学学会第62回研究大会、武蔵大学、2023年11月19日。

・「明治時代の児童向け読み物におけるジャンヌ・ダルクの伝記」（ポスター発表）、第8回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」、大阪大学豊中キャンパス、2023年12月8日。

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 若手研究 研究代表者:「明治後期から大正初期の少女雑誌におけるフランス文学・フランス文化の受容」研究課題番号 21K12971 (2021年4月～)

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学林「人文学基礎」チーム委員、ハラスメント相談員(部局)、広報・社会貢献検討委員会(後期)

〈学会活動〉日本児童文学学会事務局長、日本児童文学学会理事、日本児童文学学会運営委員、日本フランス語フランス文学会語学教育委員会委員、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員、日本児童文学学会、関西例会実行委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター講師「フランス語初級(文法・表現編)」2023年11月4日～5日。

【コミュニケーション論講座】

植田 晃次 (UEDA Kozi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B(副題:社会言語学の視点から見た「移民」をめぐる諸問題)、コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級I・II、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習(朝鮮語)、地域言語文化演習(朝鮮語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会

[研究業績]

〈論文〉

・「日本近代朝鮮語教育史から見た本田存と朝鮮語」『人文学林』1、大阪大学大学院人文学研究科、2024年3月、1-22頁

・「(研究ノート)「旧朝鮮語学」と「戦後」の朝鮮語教育の断絶と連続性小攷—残された学習書を手掛かりとして(1945-1965)—」、『批判的社会言語学の現在(言語文化共同研究プロジェクト2022)』、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2023年5月、47-58頁

〈書評・論評・紹介〉

・「(データベース)日本近現代ロシア語・中国語・朝鮮語教科書類リスト—2022年まで—:朝鮮語教科書類リスト」(2024年3月30日第1版) <http://takman.my.coocan.jp/misc-J.htm>

〈研究助成〉

・2023～2025年度(予定):科学研究費補助金基盤研究(C)「「旧朝鮮語学」と20世紀後半の朝鮮語教育から見た日本近現代朝鮮語教育史の研究」(研究課題番号:23K00745、研究代表者)

・2019～2023年度:科学研究費補助金基盤研究(B)「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」(研究課題番号:19H01282、研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・マルチリンガル教育センター：運営委員会・カリキュラム委員会・カリキュラム小委員会の各委員ほか
- ・言語文化研究科：(部内) 〈部会選出〉朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計委員会・紀要編集委員会の各委員、〈講座選出〉学生支援委員会委員
- 〈学会活動〉朝鮮学会常任幹事・編輯委員 (2020年4月～)

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)、総合英語 (Performance Workshop)、英語選択

〈学部教育担当科目〉コミュニケーション論 a・b (外国語学部外国語学科 学共-方法論)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語人類学、語用論、記号論、実践論・出来事論としてのコミュニケーション研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association

[研究業績]

〈論文〉

・『『クオリア』について：コミュニケーション分析に援用するための理論的基礎考察 II』『言語文化共同研究プロジェクト 2022 ことばと社会②』、1-10 頁、2023 年 6 月

・「コミュニケーション論から考える『ことばの教育と平和』：日本における英語の教育はいつまで『英語教育』でなければならないのか」佐藤慎司・神吉宇一・奥野由紀子・三輪聖 (編著)『ことばの教育と平和：争い・隔たり・不公正を乗り越えるための理論と実践』(97-129 頁)、明石書店、2023 年 4 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「言語人類学を梃子に、パース記号論と身体記号学を接合する」「ワークショップ 相互行為中の身体動作を対象としたマルチモーダル連鎖分析から身体記号学へ」(企画責任者：高梨克也、話題提供者：坂井田瑠衣・安井永子・山本敦・榎本剛士、指定討論者：片岡邦好・古山宣洋)、第 48 回社会言語科学会研究大会、2024 年 3 月 8 日

・「マルチモーダル記号論、および、その実装可能性について」第 8 回大阪大学豊中地区研究交流会、2023 年 12 月 8 日 (共同発表者：中川佳保)

・「言語人類学からのマルチモーダル記号論」コミュニケーションの自然誌研究会、2023 年 11 月 20 日

・Poetics of Cheering: Multimodal Achievement of Phaticity in a Japanese Junior-High School Pep Rally, The 18th International Pragmatics Conference, 2023 年 7 月 14 日

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」(2022 年 10 月～2027 年 3 月) 研究分担者 (研究代表者：嶋津百代)

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」(2022 年 5 月～2025 年 3 月) 研究分担者 (研究代表者：高梨克也)

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会・カリキュラム小委員会委員

〈学会活動〉日本英語教育史学会理事、社会言語科学会研究大会発表賞選考委員会委員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター客員准教授

王 周明 (WANG Zhouming) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 語用論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 中国語初級 I・II、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉 日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈論文〉

・王周明 (2023) 「日本中国語教科書の形式および内容変遷による啓示 (二) — 拼音採用以前の中国語音声表記法ほかの実態概観 —」 『言語文化共同研究プロジェクト2022・時空と認知の言語学XII』 (大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻) pp. 10-19

〈口頭発表〉

・「日本漢語教科書中の母語文化負転移現象」 中央民族大学民族博物館定例研究会 (中国中央民族大学、2023年11月4日)

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究 B (課題番号 A19H012820) 「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」 (研究代表者、2019~2021年度 (2023年度まで繰越))

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・科研講演会 (座談会形式) : 異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として— (2023年10月1日、大阪大学人文学研究科言語文化学専攻)

[その他の活動]

〈管理運営〉 学内 : 全学ハラスメント相談員・豊中地区事業場安全衛生委員会委員

専攻内 : 中国語部会主任・財務会計委員・図書委員

〈学会活動〉 科研講演会の企画および運営

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語技術研究

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 外国語教育、ICT 支援外国語教育・学習、メタバース活用

〈所属学会〉 日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会、日本外国語教育推進機構

[研究業績]

〈論文〉

・山岡正和, 大前智美, 岩居弘樹, 「複言語学習のフレームワークを利用したプログラミング学習の実践—「コンピュータの言葉プロジェクト」の試み—」, 『コンピュータ&エデュケーション (54)』, p.66-71, 2023年6月発行

・大前智美, 岩居弘樹, 「「複言語学習のススメ」による学び方の学び」, 『2023 PC カンファレンス論文集』, p.243-245, 2023年8月発行

・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向けオンライン「複言語学習」の可能性と課題—大規模校での実践を通して—」, 『2023 PC カンファレンス論文集』, p.207-210, 2023年8月発行

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・大前智美, 「多言語対応発音学習システム STlab「自学モード」の開発とその効果の検証」, 外国語教育メ

ディア学会 第62回全国研究大会, 2023年8月8日

・大前智美, 岩居弘樹, 「「複言語学習のススメ」による学び方の学び」, 2023 PC カンファレンス, 2023年8月18日

・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向けオンライン「複言語学習」の可能性と課題」, 2023 PC カンファレンス, 2023年8月18日

・大前智美, 「STLab ハンズオンセミナー」, 2023年度 e-Learning 教育学会 夏季公開セミナー, 2023年9月3日

・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向け複言語学習-大規模校での取り組みの成果と課題-」, 第12回外国語教育シンポジウム, 2024年3月10日

・大前智美, 「ドイツ語初修学習者のプレゼンテーションまでの道のり-STlab・ICT・生成AIを活用した授業実践報告-」, e-Learning 教育学会 第22回研究大会, 2024年3月16日

〈研究助成〉

・基盤研究 C, 「VR 空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発」(課題番号 22K00682), 2022年~2024年

・基盤研究 C, 「VR を使った外国語教育と教材の開発」(課題番号 22K00703), 研究分担者, 2022年~2024年

・基盤研究 B, 「多言語多文化社会を生きるための ICT 支援オンライン複言語学習モデルの研究開発」(課題番号 21H00543), 研究分担者, 2021年~2023年

〈受賞〉

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・e-Learning 教育学会 2023年度夏季公開セミナー, 2023年9月3日, 大阪工業大学梅田キャンパス

・e-Learning 教育学会第22回研究大会, 2024年3月16日, 沖縄大学

[その他の活動]

〈管理運営〉

〈学会活動〉 e-Learning 教育学会 会長

〈社会貢献活動〉 市民講座 2023 複言語学習のススメ

小川 敦 (OGAWA Atsushi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級 I・II、地域言語文化演習 (ドイツ語)、ドイツ語中級、学問への扉 (ことばの社会学入門)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉 日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・阪神ドイツ文学会 第73回総会・第240回研究発表会, 2023年4月8日、大阪大学

・日本言語政策学会 第25回研究大会, 2023年6月17・18日、麗澤大学

・阪神ドイツ文学会 第241回研究発表会, 2023年7月16日、オンライン開催

・阪神ドイツ文学会 第242回研究発表会, 2023年12月11日、近畿大学

[その他の活動]

〈管理運営〉 広報・社会貢献検討委員会委員長、ネットワーク委員、コンテンツ委員、カリキュラム委員
〈学会活動〉 日本言語政策学会理事、日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、阪神ドイツ文学会幹事

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉 International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員 (英語部会)、国際交流委員 (コミュニケーション論講座)、研究企画推進委員長 (言語文化学専攻)、研究推進副委員長 (人文学研究科)

〈学会活動〉 メディアとことば研究会役員

瀧田 恵巳 (TAKITA Emi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コミュニケーション論特別研究、語用論研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ダイクシス表現を中心とする語用論

〈所属学会〉 日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

[研究業績]

〔論文〕

・「『デュランデ城』におけるダイクシス (その1) 一版によって her-と hin-が入れ替わる事例を中心に」
『言語文化共同研究プロジェクト 2022・時空と認知の言語学XII』 pp.30-39. 大阪大学大学院人文学研究科. 2023年5月

・「ダイクシス表現の分類における人称の位置づけについて」『大阪大学 大学院人文学研究科紀要 第1巻』
pp.99-133. 大阪大学大学院人文学研究科 2024年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉 設備・施設マネジメント委員会委員

秦 かおり (HATA Kaori) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語コミュニケーション特別研究 A・B、社会言語学研究 A・B、

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉 社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本メディア学会、カルチュラル・スタディーズ学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「会話の終結はどのようにしてなされるか -初対面オンライン会話を事例に-」オンライン研究会「COVID-19

- とデジタルネイティブ世代—多言語による語りの収集と分析」 (研究発表：単独) 2024年3月18日
- ・「会話場面における相互行為マーカーとしての 非言語行動の機能について —オンライン授業場面の雑談を事例に—」 (研究発表：単独) 日常会話コーパスシンポジウム 2024年3月18日
 - ・「語り」の研究でみえてくるもの —ナラティブ研究の基礎から実践まで— (ゲスト講義) 立命館大学, 2023年11月15日
 - ・“New Media, New Normal: The Resilience through Online Communication during and after COVID-19 Pandemic” 中国語用論学会 (講演：オンライン参加) 2023年8月27日
 - ・“How to survive in atypical situation as minority people: A comparative study of immigrants’ narratives in Korea and the UK” (with Hiroe TAKEMURA) 第18回国際語用論学会, Université Libre de Bruxelles, Brussels, Belgium 2023年7月14日
 - ・“Digital natives' online first meeting discourse about COVID-19 Disaster: The boundaries between exclusion and empathy in the narratives” 第18回国際語用論学会 Université Libre de Bruxelles, Brussels, Belgium, 2023年7月14日
 - ・“Telling/not telling stories in discourses about Japan under atypical situations” Kaori HATA, (with Akira Satoh) 第18回国際語用論学会, Université Libre de Bruxelles, Brussels, Belgium, 2023年7月13日
- 〈研究助成〉
- ・科学研究費基盤 B 「COVID-19 とデジタルネイティブ世代—多言語による語りの収集と分析」、分担者、(代表：村田和代)、2022-2024年度
 - ・科学研究費基盤 C 「異文化理解のための話し言葉コーパス—国際共通語としての英語で学ぶ現代日本社会」、分担者、(代表：山口征孝)
 - ・国語研究所共同研究プロジェクト 「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」、共同研究員、研究代表者：小磯花絵 (国立国語研究所)、2022~2027年度
- 〈国際共同研究実施状況〉
- ・「COVID-19 とデジタルネイティブ世代—多言語による語りの収集と分析」、分担者 (日本チーム)、(研究代表者：岩崎勝一 (UCLA))
- 〈分野横断的研究実施状況〉
- ・「国際共修型」文学模擬裁判メソッドの開発 —市民性を醸成する対話教育を目指して—、模擬裁判の談話分析的な分析を担当)、代表者：札埜和男 (龍谷大学)
- 〈主たる実施者となって開催した研究会〉
- ・第17回動的語用論研究会、2023年10月7日、大阪大学豊中キャンパス (ハイブリッド)
 - ・第55回メディアとことば研究会、2024年3月8日、於：福岡女子大学
 - ・第18回動的語用論研究会、2024年3月16日、龍谷大学・深草キャンパス (ハイブリッド)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉人文学研究科入試・広報委員会広報実務部門部門長、コミュニケーション論講座講座代表者、マルチリンガル教育開発オフィス (英語教育開発チーム)
- 〈学会活動〉日本語用論学会評議員、日本語用論学会広報委員長、日本語用論学会事務局長、カルチュラル・スタディーズ学会編集委員、メディアとことば研究会世話人、『語用論研究』査読担当、『年報カルチュラル・スタディーズ』査読担当、『社会言語科学』査読担当
- 〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター面接授業講師

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究 A・B、コミュニケーション論 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語アカデミック・ライティング教育研究、専門日本語教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、日本文体論学会

[研究業績]

〈論文〉

・Soysuda Na Ranong・村岡貴子 (2024) 「大学院生における論文執筆上の困難点と課題ータイの大学院生への質問紙調査からー」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第28号、pp.35-45.

・横川未奈・村岡貴子 (2024) 「日程再調整のビジネスEメールを作成する際の書き手の意図ー日本語母語話者と日母語話者のインタビュー結果の比較ー」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第28号、pp.73-85.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・村岡貴子 (2023) 「大学院留学生向けの日本語論文執筆に関する教育と研究指導」同志社大学経済学研究科FD研修会(オンライン) (招待) 2023.11.14.

・村岡貴子 (2023) 「(巻頭言) 研究・教育をどう捉え、未来へ橋渡しするか」『専門日本語教育研究』第25号、pp. 1-2. 2023.12.31.

・卓妍秀・村岡貴子・福良直子・和嶋雄一郎 (2024) 「理工系大学院における英語プログラムの留学生の日本語学習の位置づけとその意義ーキャリア形成を視野にー」第26回専門日本語教育学会研究討論会(立命館大学いばらきキャンパス) 2024.3.2.

・村岡貴子・Soysuda Na Ranong (2024) 「タイの大学院生の研究活動における論文執筆上の困難点と課題ー支援に必要な視点を探るー」第1回タイ国日本語教育国際シンポジウム(タイ国 カセサート大学人文学部) 2024.3.9.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:20H01270 令和2年度~令和5年度「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成ー批判的思考を中心にー」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:21H00537 令和3年度~令和7年度「アジア圏留学生の学修・キャリア支援教育における総合的支援に関する学際的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号:21H04417 令和3年度~令和7年度「海外縦断作文コーパスの構築に基づく文章算出能力の発達過程の実証的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号:22K00637 令和4年度~令和6年度「理工系英語コース留学生の研究・就職に必要な日本語能力の分析と日本語教育への応用」研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学ASEANキャンパス運営委員会WGメンバー、マルチリンガル教育センター兼任教員、国際教育交流センター副センター長、国際教育交流センター教務委員会委員長

〈学会活動〉専門日本語教育学会会長、専門日本語教育学会第26回研究討論会実行委員会委員、社会言語科学会編集委員会委員、日本語教育学会審査・運営協力員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な言語資源に基づく日本語非母語話者の言語運用の応用的研究 日本語母語話者の作文の縦断コーパス研究」プロジェクト構成員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多言語・多文化社会における言語問題に関する研究」プロジェクト構成員

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B、言語コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG

(国際ゲルマニスト会議)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

〈編著〉大塚生子、柳田亮吾、山下仁(編著)、『イン／ポライトネス研究の新たな地平』、三元社、2023年10月20日

〈論文〉

・「協調的ではないコミュニケーションー協調の原理、ポライトネス理論とジークフリート・イェーガーの装置分析」、大塚生子、柳田亮吾、山下仁(編著)、『イン／ポライトネス研究の新たな地平』、査読有、95-131ページ、2023年

・「ジークフリート・イェーガーの装置分析の可能性：野呂香代子によるメルケル批判を例に」、『言語文化共同研究プロジェクト2022：批判的社会言語学の現在』(大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻編)、査読無、13-26ページ、2023年

〈書評・論評・紹介〉

・「書評 社会学の理論と関連付けた社会言語学の諸相-Jürgen Spitzmüller Soziolinguistik eine Einführung (J.B. Metzler、2022年)」、『社会言語学23』、査読有、175-196、2023年

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「Über die nicht kooperative Kommunikation - Dispositivanalyse von Siegfried Jäger」、Das 25. Sorak-Symposium、2023年9月24日、招待講演

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・「CDS研究会」、2023年4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、10月1日、10月22日、11月12日、2024年1月28日、2月23日、大阪大学人文学研究科言語文化学棟。

[その他の活動]

〈管理運営〉リーディング大学院超域イノベーション博士課程プログラムラム学内プログラム委員、人文学林インターンシップ・チームメンバー、

〈学会活動〉多言語社会研究会編集委員、多言語化現象研究会運営委員

渡邊 伸治 (WATANABE Shinji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論特別研究、語用論研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ダイクシス、視点にもとづくドイツ語研究

〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ語文法理論研究会、京都ドイツ語研究会

[研究業績]

〈論文〉

・「hin+gehen の出現率と独訳聖書のタイプ分けの相関関係：直訳型聖書/意識型聖書」『人文学林』1. pp. 205-225. 2024年3月

・「hin/her+gehen/kommen の考察 -ニーベルンゲンの歌とトリスタンの原文/現代語訳を資料に」『言語文化共同研究プロジェクト2022 時空と認知の言語学(12)』 pp. 50-59. 2023年5月

・「gehen/kommen と hin/her におけるダイクシス性と視点性 -現代ドイツ語と中高ドイツ語の比較対照的考察-」『ドイツ文学』166. pp. 52-70. 2023年5月

【第二言語教育学講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 准教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Project-based), 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 テキスト分析ツール開発, 言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング

〈所属学会〉 日本語テスト学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

[研究業績]

〈アプリケーション開発〉

〈開発継続〉

・ CasualConc 3.0 (テキスト分析ツール)

・ CasualTranscriber 2.7 (文字おこし補助ツール)

〈研究助成〉

・ 自然言語処理 CUI アプリケーションの汎用 GUI コーパスツールへの組み込み (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2020–2023 年度)

・ Testing and teaching second language pragmatic skills for studying abroad (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2020–2024 年度)

〈受賞〉

・ 大阪大学賞 教育貢献部門「特定学術目的の英語 (ESAP) 教材の開発と全学共通教育英語科目での活用」

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員長

〈学会活動〉 Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事, 外国語教育メディア学会関西支部運営委員

〈社会貢献活動〉

・ 兵庫県令和 5 年度高校英語教育講座 講師

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育実践研究 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ICT を活用した外国語教授法, 複言語学習, 教育工学

〈所属学会〉 日本外国語教育推進機構, 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

・ 山岡正和, 大前智美, 岩居 弘樹, 「複言語学習のフレームワークを利用したプログラミング学習の実践—「コンピュータのことばプロジェクト」の試み—」, 『コンピュータ&エデュケーション 54』, pp.66–71, 2023 年 6 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 岩居弘樹, 「Interactive Video 教材の作り方と大学での活用法」, Edix 関西 Edpuzzle プース, 2023 年 6 月 15 日

・岩居弘樹, 「これからの学びの在り方とオンライン授業の意義と注意点」, 千葉県総合教育センター研修会, 2023年8月7日

・岩居弘樹, 「外国語学習における Interactive Video の可能性」, 第62回外国語教育メディア学会全国研究大会, 2023年8月8日

・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向けオンライン「複言語学習」の可能性と課題」, 2023 PCカンファレンス, 2023年8月18日

・大前智美, 岩居弘樹, 「「複言語学習のススメ」による学び方の学び」, 2023 PCカンファレンス, 2023年8月18日

・岩居弘樹, 「「学びの風景」から外国語の学び方を考える」, 在日本ハングル学校関西地域協議会2023年教師研修会, 2023年11月26日

・岩居弘樹, 「外国語教育における ICT 活用とアクティブ・ラーニング」, 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター主催FD, 2023年12月9日

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(B), 音声認識とビデオ撮影による自己省察を基礎とした ICT 支援複言語学習モデルの研究

[その他の活動]

〈管理運営〉サイバーメディアセンター副センター長

〈社会貢献活動〉

・「複言語学習のすすめ」@岡山市立芥子山小学校 2023年9月~11月 (10回)

・「複言語学習のすすめ」@光塩女子学院初等科 2023年9月~2024年1月 (7回)

・「複言語学習のすすめ」@近大付属小学校 2023年10月~11月 (4回)

・「複言語学習のすすめ」@交野市教育委員会 2023年12月23日

〈市民向け講座・講演〉

・市民講座「複言語学習のススメ」2023年9月~2024年1月 (6回)

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション(日本語)、学問への扉(多文化コミュニケーションセミナー)、アドヴァンストセミナー、International Communication Seminar (Japanese)203

〈学部教育担当科目〉第二言語社会・文化研究a・b

〈国際交流科目担当科目〉総合日本語 JA200、日本語・グローバル理解演習 (Japanese and Global Understanding)

600b・600e

[研究活動]

〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語(日本語)教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉日本語教育学会

[研究業績]

〈編著〉(単独の編者によるもの)

・『教師とボランティアのための 日本語教育 実践 日本語Q&A』大谷晋也編著、大谷伊都子、楠木理香、柴田幸子、竹内茜、立川真紀絵、内藤裕美 共著、Kindle Direct Publishing、2024年3月

〈受賞〉

・大阪府知事表彰(みのお外国人医療サポートネット) 2023年5月

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員(専任)、国際教育交流センター財務委員長、マルチリンガル

教育センター運営委員会委員、同カリキュラム委員会委員、マチカネにはんご交流会・竹の子にはんご交流会担当教員

〈社会貢献活動〉医療事務連絡会（箕面市等）委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員

〈市民向け講座・講演〉

- ・「出入国管理と外国人政策」、みのお外国人医療サポートネット定例研修会、2023年5月
- ・「『やさしい日本語』を使っていますか？ ～だれもが分かりやすいコミュニケーションのために～」スミス 朋子・大谷晋也、外国人市民への保健・医療サポートセミナー、2024年2月

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究A、第二言語研究法B、第二言語教育学特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)、総合英語 (Liberal Arts & Science)

[研究活動]

〈研究テーマ〉会話分析、第二言語語用論

〈所属学会〉大学英語教育学会、言語文化教育研究学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Okada, Y. & Siegel, A. (2024). "Awkward moments" during first-time informal online ELF interaction and their social relational consequences. In C. Bushnell & S.J. Moody (Eds.), *Navigating Friendships in Interaction: Discursive and Ethnographic Perspectives* (pp.32-53). Routledge.

・ 岡田悠佑 (2024). エデュテインメントの相互行為的達成 —NHK『子ども科学電話相談』の会話分析—. 人文学林, 1, 56-84.

・ 岡田悠佑 (2023). 「欠落した相互行為資源」を用いたアイデンティティの達成：学生間英語オンラインビデオ会議における語彙探索連鎖の分析『応用会話分析研究 2022：ニューノーマルの達成・獲得を可視化する (言語文化研究科共同プロジェクト 2022)』1-10.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 岡田悠佑 (2023年12月)「フィードバック連鎖における定式化を通じたTAの役割とアイデンティティの確立」第6回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会

・ 岡田悠佑 (2023年11月)「第二言語語用論研究のための応用会話分析ワークショップ」JACET SLA 研究会・東京外国語大学英语学習支援センター (招待講演)

・ 岡田悠佑 (2023年11月)「会話分析による第二言語研究入門」立命館大学大学院言語教育情報研究科「日本語教育学10(日本語を対象とした語用論と談話分析)」(ゲスト講義)

・ 岡田悠佑 (2023年9月)「L2語用論研究における会話分析」JACET SLA 研究会 2023年度9月例会

・ 岡田悠佑 (2023年8月)「大阪大学への学び、大阪大学での学び」大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻高大連携講義 (アサンブション国際高等学校)

〈研究助成〉

・ 放送文化基金助成 2023 (人文社会・文化)「米公聴会とそのニュース報道の談話分析による事実検証手法の考察」

・ 科研費基盤C「アクティブ・ラーニング型大学英语授業におけるTAの授業参加法のモデル化」

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員 (人文学研究科代表)

〈社会貢献活動〉

・ 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻高大連携講義講師 (アサンブション国際高等学校)

金澤 佑 (KANAZAWA Yu) 講師

<https://researchmap.jp/ku-kanazawa/goldstream>

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 情動、語彙・定型表現、認知心理学、アクティブラーニング (理論的・学際的・実践的探究)

〈所属学会〉 外国語教育メディア学会 (LET)、LET 関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG)、日本哲学プラクティス学会 (JSP)、全国語学教育学会 (JALT)、JALT CALL SIG、日本感情心理学会 (JSRE)、イギリス応用言語学会 (British Association for Applied Linguistics [BAAL])、国際言語学習心理学会 (The International Association of the Psychology of Language Learning [IAPLL])、大学英語教育学会 (JACET)、全国英語教育学会 (JASELE)、関西英語教育学会 (KELES)、日本第二言語習得学会 (J-SLA)、ことばの科学会 (JSSS)、国際応用言語学会 (Association Internationale de Linguistique Appliquee [AILA])、日本自律学習学会 (JASAL)、日本多読学会 (JERA)、日本ケースセンター、The Case Centre、Harvard Business Publishing Education Teaching Center、日本質的心理学会 (JAQP)

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 金澤佑 (2023) 「高徳な感情をめぐる東洋思想・西洋哲学横断的思索の試み—儒教における四端はトライアド情動なのか—」 『感情心理学研究』 31(Supplement), OS5-03. https://doi.org/10.4092/jsre.31.Supplement_OS5-03
- ・ Kanazawa, Y. (2023). Ikigai as a personality trait: Its correlations with other multiple intelligences. *International Journal of Psychology*, 58(S1), 853. <https://doi.org/10.1002/ijop.13058>
- ・ Kanazawa, Y. (2023). What do the deep positivity hypothesis and ikigai imply to Positive Education? *International Journal of Psychology*, 58(S1), 1007-1008. <https://doi.org/10.1002/ijop.13081>
- ・ Lafleur, L., & Kanazawa, Y. (2023). The effects of emotional word items and word familiarity on second language vocabulary learning. *International Journal of Psychology*, 58(S1), 455. <https://doi.org/10.1002/ijop.13013>
- ・ Matsushima, K., Shimizu, S., Kanazawa, Y., & Shirai, T. (2023). Philosophical dialogue in English education: P4C, CLIL, and P4ELT. *Japanese Journal of Philosophical Practice*, 5, 48-59. https://www.researchgate.net/publication/372364652_Philosophical_Dialogue_in_English_Education_P4C_CLIL_and_P4ELT
- ・ Kanazawa, Y. (2024). The free energy principle and its implications to language learning and education: 4E cognition, prediction, accuracy-complexity trade-off, intrinsic motivation via epistemic emotions, 4 skills. *Memoirs of the Graduate School of Humanities, Osaka University*, 1, 135-157. <https://doi.org/10.18910/94802>

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 金澤佑 (2023) 「[報告: <11 日 (日) 講演> 「第二言語習得を支える認知・社会認知システムと英語の学習指導」]」 『KELES Newsletter, 2023 年第 1 号』 p. 4, 関西英語教育学会.
- ・ 金澤佑 (2023) 「科学的知見に支えられた教育実践のために [書評: 門田修平 (2023) 『社会脳インタラクションを活かした英語の学習・教育: やり取りの力を伸ばす』]」 『英語教育 2023 年 11 月号』大修館書店.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Kanazawa, Y. (2023, May 13). Challenger's Reading Circle: A deep active learning activity that fosters 21st century skills [Paper presentation]. NATESOL Online Annual Conference 2023, Leeds Zoom Room, England. <https://researchmap.jp/ku-kanazawa/CRC?lang=en>
- ・ 金澤佑 (2023 年 5 月 28 日) 「高徳な感情をめぐる東洋思想・西洋哲学横断的思索の試み—儒教における四端はトライアド情動なのか—」 『日本感情心理学会第 31 回大会』松山市立子規記念博物館、愛媛、日本
- ・ Kanazawa, Y. (2023, June 11). Theories behind P4ELT: A uniter of fostering 21st century skills and caring emotion beyond valence [Paper presentation]. 2023 Kansai English Language Education Society 29th Annual Conference, Osaka Kyoiku University Tennoji Campus, Osaka, Japan.

・ Lafleur, L., & Kanazawa, Y. (2023, August 17). The effects of interleaved spaced repetition software on academic vocabulary knowledge acquisition [Paper presentation]. EuroCALL 2023 Conference, University of Iceland, Reykjavik, Iceland.

・ 金澤佑 (2023 年 11 月 5 日) 「Ipseity への接近：外国語ライティング指導におけるディープ・アクティブラーニング教育実践としてのミニ・オートエスノグラフィー活動の可能性」『日本質的心理学会第 20 回大会』立命館大学大阪茨木キャンパス、大阪、日本

・ Kanazawa, Y. (2023, November 25). /api:éi njú:z/: An engaging way to teach phonetic symbols [Workshop]. JALT2023 International Conference, Tsukuba/Online, Japan <https://researchmap.jp/setting/you-kanazawa/ipa?lang=en>

・ Kanazawa, Y., & Otake, S. (2023, December 2). Digital assessment of receptive and productive knowledge of EFL learners: Comparing vocabulary and formulaic sequences via exploratory factor analysis [Paper presentation]. JAAL in JACET 2023 Conference, Ochanomizu University, Tokyo, Japan.

・ Kanazawa, Y. (2024, February 4). The more emotionally intelligent, the more likely to remember emotional words embedded in incongruent emotional contexts [Paper presentation]. JALT Hokkaido Winter Conference 2024, Hokkai-Gakuen University, Sapporo, Japan.

・ Kanazawa, Y., Matsuo, T., Isobe, Y., Izumi, E., Otake, S., Kadota, S., Sugiura, K., & Morishita, M. (2024, March 2). Semantic familiarity survey of polysemous English phrasal verbs for Japanese learners of English [Paper presentation]. JELES-54 (2024): The 54th Annual Joint Meeting of JELES English Language Education Society of Japan and Japanese Association for Educational Linguistics with special focus on EMI concurrently with ABCJ-2024/03: Association for Business Communication in Japan IE-2024/03: Association for International and Global Education, National Tsing Hua University, Hsinchu, Taiwan/Hybrid.

・ Kanazawa, Y. (2024, March 17). A pseudo-autoethnographic inquiry into the type of emotions that accompanies learning at the first encounter. American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2024 Conference, Houston, TX.

・ Kanazawa, Y. (2024, March 23). P4ELT – Its theoretical background [Paper presentation]. P4ELT Day of LET-FMT-SIG, Zoom, Japan.

〈研究助成〉

・ The Effect of Emotional Context and Valence on Second Language Vocabulary Acquisition: Experimental Investigation, Multifaceted Analysis, and Pedagogical Applications (日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C):JP19K00899) 研究代表者 (PI)

・ Epistemic Emotions in Foreign Language Learning: Psychological Investigation and Pedagogical Inquiry (日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) : JP22K00806) 研究代表者 (PI)

〈分野横断的研究実施状況〉

*プロジェクト：P4ELT (英語教育における哲学対話)

・ 自身の役割：共同研究者・共同著者・イベント主催者

・ プロジェクトの概要：哲学者、CLIL 研究者/実践者、外国語教育研究者がコラボレーションし、哲学対話 (P4C) を英語教育実践に活かす分野横断的な試みについての理論的・実践的論文を刊行するとともに (2023 年 7 月)、オンライン公開イベントを企画しました (2024 年 3 月実施)

・ アピールできるアウトカム等：

出版した論文：Matsushima, K., Shimizu, S., Kanazawa, Y., & Shirai, T. (2023). Philosophical dialogue in English education: P4C, CLIL, and P4ELT. *Japanese Journal of Philosophical Practice*, 5, 48-59.

*プロジェクト (No.2)：フォーミュラ (定型表現) と外国語学習・教育

・ 自身の役割：プロジェクトリーダー・部会長

・ プロジェクトの概要：外国語教育メディア学会 関西支部 基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG) 第 12 次プロジェクトでは、これまでの応用言語学における研究成果に加えて、ウェブサイトホスティングやプログラミングの技能を有する研究者との連携により、CALL の知見を活用したオンライン学習システムの構築や電子テストの作成を行いました。

・アピールできるアウトカム等：

作成したオンライン学習教材にアクセスできるウェブサイト：<https://eigomemo.com/login> (Wordlist: Formula 001 ~ 501 に相当)。作成したオンラインテストにアクセスできるウェブサイト：<https://vlt.carleton.ca/> (Wordlist: FORMULA (Multiword)の実装。なお、本研究部会ではプロジェクト研究のほか一般公開の例会を二か月に一回程度開催している。

〈主たる実施者となって開催した学会〉

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (多読、バイリテラシー)、5月20日、Zoom
- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (Vocabulary Day #2)、8月26日、Zoom
- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (Digitalizing ELT Day)、9月24日、Zoom
- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (Gamification Day)、11月19日、Zoom
- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (公開講演会 - SLA 研究×認知心理学：語彙・文法学習における練習 (Practice) 研究の最前線) 2024年2月24日、関西学院大学大阪梅田キャンパス
- ・外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (【哲学対話×英語教育】：P4ELT Day)、3月23日、Zoom

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・人文学研究科言語文化学専攻 学生支援委員、大阪大学言語文化学会委員

〈学会活動〉

外国語教育メディア学会 (LET) 本部 編集委員、外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 運営委員、大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 紀要編集委員、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG) 部会長、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG) プロジェクトリーダー、大阪大学言語文化学会 教員委員

〈社会貢献活動〉

International Journal of Applied Linguistics 査読員

〈市民向け講座・講演〉

- ・金澤佑 (2023年9月16日) 「[講義] 語彙学習をめぐる理論と実践 一定型表現・処理の量と質・情動関与と処理」『令和5年度公開講座 LC セミナー2023：言語文化学の展望』大阪大学 大学院 人文学研究科 言語文化学専攻
- ・金澤佑 (2023年12月14日) 「[講義] ディープ・アクティブラーニングを取り入れた読解活動」『大阪大学マルチリンガル教育センター公開講座 (FD 講演会)』大阪大学 マルチリンガル教育センター

小口 一郎 (KOGUCHI Ichiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育方法論 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 実践英語 (e-learning)、総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス・ロマン主義、18世紀思想、アカデミック・ライティング

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会中部支部、イギリス・ロマン派学会、大阪大学言語文化学会、大阪大学英文学会、名古屋大学英文学会、大学英語教育学会 (JACET)、e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“Towards Interactive Dynamism: A Recent Current in Academic Writing Studies.” 『言語文化共同プロジェクト2022—英語教育の新たな実践に向けて(2)』 大阪大学大学院人文学研究科 言語文化学専攻, 2023, pp. 33-43.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ Seth T. Reno, *Early Anthropocene Literature in Britain, 1750-1884. IVY*, 第56巻、2023年12月, pp. 147-57.
- ・ Junko Takefuta (Ed.). (2022). *Three-step auditory comprehension approach: Evidence-based theory and practice*. 『e-Learning 教育研究』第18巻、2024年3月, pp. 63-68,

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 「3700人を教える一大規模英語 e-learning 授業の運営と成果」 小口一郎, 岡本清美, 三木訓子, 大阪大学 第8回豊中地区研究交流会 2023年12月8日.
- 「「人間」へのシフト: 5年間の大規模必修 e-learning 授業運営を通して」 小口一郎, 三木訓子, 岡本清美 2023年度 JACET 関西支部大会 2024年3月9日.

〈研究助成〉

- ・ 研究代表者「観念連合論の身体・物理的展開—近代文学批評理論の学際的再評価」科学研究費助成事業基盤研究(C) (一般) : 19K00392
- ・ 研究協力者「癒しと再生のロマン主義—グリーンケアをめぐる環大西洋エコロジーの展開と現代性」科学研究費助成事業・基盤研究(B) (一般) : 21H00512

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター・言語教育開発オフィス長、同 学習支援・社学共創開発オフィス長、教育情報化WG委員

〈学会活動〉イギリス・ロマン派学会理事、e-Learning 教育学会理事・編集委員、関西コールリッジ研究会共同代表

〈市民向け講座・講演〉朝日カルチャーセンター講師 (イギリス・ロマン派の詩)

中俣 尚己 (NAKAMATA Naoki) 准教授

<http://nakamata.info/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究 A、B

〈共通教育担当科目〉総合日本語 JA300、日本語・グローバル理解演習 JGU500(c)、(f)

〈学部教育担当科目〉International Communication Seminar (Japanese) 303、500c、500f

[研究活動]

〈研究テーマ〉計量言語学および日本語教育への応用

〈所属学会〉関西言語学会、日本語文法学会、日本語学会、中国語話者のための日本語教育研究会、日本語教育学会、第二言語習得研究会、社会言語科学会、計量国語学会、日本語/日本語教育研究会、言語処理学会

[研究業績]

〈編著〉(単独の編者によるもの) 著者名、書籍名、出版社、発行年月を必ず記載する。

・ 話題別コーパス研究会(編) 『ミニストーリーで覚える日本語能力試験ベスト単語 N1 合格 2600』ジャパンタイムズ出版 2023年11月

・ 中俣尚己(編) 『話題別コーパスが拓く日本語教育と日本語学』ひつじ書房 2023年12月

〈論文〉

・ Nakamata, N. Building a Topic-Oriented Corpus and Its Application for Language Teaching, *Proceedings of the 37th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation*, pp.210-216, 2023年12月

〈書評・論評・紹介〉

・ 中俣尚己「李光赫・趙海城著『条件文の日中対照計量的研究—KH Coder と SPSS を利用した可視化分析—』 『日本語の研究』19-3, pp.26-33, 2023年12月

・中俣尚己「丸山直子 著『書き言葉と話し言葉の格助詞—コーパスと辞書記述の観点から—』 『日本語文法』 24-1, pp.106-113, 2024 年 3 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中俣尚己「言語行動の違いをとらえ、分析するために」 语言对比研究与日语教学-专题研讨会- (オンライン・北京外国語大学) 2023 年 4 月 14 日

・中俣尚己「『日本語話題別会話コーパス:J-TOCC』の構築と活用法」 学習者コーパス研究会 (オンライン・国立国語研究所) 2023 年 6 月 18 日

・中俣尚己「中納言を活用した日本語研究」 科技部 高端外国专家引进计划 系列講座 (オンライン・大連理工大学) 2023 年 7 月 27 日、8 月 3 日、8 月 10 日

・中俣尚己「話題は言語にどのように影響を与えるか？」 講演会 (オンライン・香港大学) 2023 年 8 月 11 日

・中俣尚己「コーパスを使って日本語を調べる」「話題別コーパスを使って日本人学生の会話を調べる」 講演会 (オンライン・陝西師範大学) 2023 年 11 月 28 日、2023 年 12 月 14 日

・中俣尚己「話題別コーパスが拓く日本語・日本語教育研究」 さいたま日本語研究会 (埼玉大学) 2023 年 12 月 16 日

・中俣尚己「みんなで作る『文法コロケーションハンドブック E』」 言語学フェス 2024 (オンライン) 2024 年 1 月 27 日

・中俣尚己「コーパスから始まる例文作り」 シンポジウム「現場に役立つ日本語教育研究—経験からデータへ—」 (聖心女子大学) 2024 年 3 月 23 日

〈データベース〉

「話題別日本語語彙表 (短単位版)」, 2023 年 5 月 18 日

『文法コロケーションハンドブック E』 Ver. 2023.1, 2023 年 8 月 10 日

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(B) 「「話題から始まる日本語教育」を支援する情報サイトの構築と話題別会話コーパスの拡充」 (課題番号 22H00668) 研究代表者

・科研費基盤研究(A) 「文章の語彙レベルの学習者適合度の判定方法の開発 —日本語教育・国語教育への応用—」 (課題番号 23H00072) (研究代表者: 松下達彦) 研究分担者

・科研費基盤研究(B) 「聴解コーパスの構築による日本語学習者の聴解困難点と推測技術の実証的研究」 (課題番号 22H00669) (研究代表者: 野田尚史) 研究分担者

・国立国語研究所 共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 (プロジェクトリーダー: 小磯花絵) 共同研究員

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センターネットワーク管理者、国際教育交流センター研究倫理審査委員長、国際教育交流センターハラスメント対策委員

〈学会活動〉 計量国語学会理事、日本語教育学会評議員、日本語教育学会 JCN 研修事業基盤整備委員会副委員長、中国語話者のための日本語教育研究会顧問、日本語/日本語教育研究会学会誌委員

難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合日本語, 専門日本語

〈国際交流教育担当科目〉 Japanese JA100

〈学部教育担当科目〉 International Communication Seminar (Japanese) 103,

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本語文化学会、e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ SALC の学生スタッフと創る日本語学習支援 :OU マルチリンガルプラザの活動から、瀬井陽子、義永美央子、難波康治、角南北斗、井奥、智大、多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』28 号
- ・ Perception of Japanese moraic nasal in intervocalic position by Japanese native speakers and Korean learners of Japanese. Heesun Han, Koji Namba, Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences (PDF), 2023 年 8 月 9 日
- ・ Development of 360-Degree Virtual Reality Chinese CLIL Learning Material for Intercultural Understanding Integrated with Sustainable Development Goals (SDGs) for Regional Revitalization. Pei-Ling Chien, Koji Namba, Elton Su, Proceedings of the 12th International Conference on Information and Education Technology 12, 143-148, 2024 年 3 月 17 日

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Perception of Japanese moraic nasal in intervocalic position by Japanese native speakers and Korean learners of Japanese. Heesun Han, Koji Namba, The 20th International Congress of Phonetic Sciences, 2023 年 8 月 9 日
- ・ HMD を利用した 没入型メタバース環境下での オンライン授業実践、東アジア日本研究者協議会 第 7 回学術大会、2023 年 11 月 4 日
- ・ Development of 360-Degree Virtual Reality Chinese CLIL Learning Material for Intercultural Understanding Integrated with Sustainable Development Goals (SDGs) for Regional Revitalization. Pei-Ling Chien, Koji Namba, Elton Su, The 12th International Conference on Information and Education Technology, 2024 年 3 月 17 日

〈受賞〉

日本 e ラーニング大賞日本語教育特別部門賞「日本語オリジナルショートビデオを中心としたオンライン教材『ミアンのチャレンジ日記ー日本で仕事を探してみよう』の開発、」一般社団法人日本オンライン教育産業協会 2023 年 10 月

[その他の活動]

〈管理運営〉教育情報化ワーキンググループ、次期 LMS 選定サブワーキンググループ

〈学会活動〉

- ・ 韓国日本語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉

- ・ 公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員
- ・ 井内奨学財団 評議員

西田 理恵子 (Rieko NISHIDA) 准教授

<http://www.rienishi.jimdo.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育法 A、応用言語学研究論 B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉応用言語学研究 (動機づけ、情意要因)、英語教育、方法論

〈所属学会〉大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)

[研究業績]

〈編著〉

・西田理恵子・出口朋美 (2023) (編著) 『外国語学習の情意と異文化コミュニケーションの融合』 八島智子教授退職記念論集. ウェブ公開.

〈論文〉

・Yashima, T. & Nishida, R. (2024). Reflecting on the conceptual core and developing a short version of international posture. *System*, 121, 1-15.

・西田理恵子 (2023). 私の動機づけ研究：八島智子先生にその思いを寄せて. 西田理恵子・出口朋美 (編著) 『外国語学習の情意と異文化コミュニケーションの融合』 八島智子教授退職記念論集.

・西田理恵子・出口朋美 (2023). はしがき. 西田理恵子・出口朋美 (編著) 『外国語学習の情意と異文化コミュニケーションの融合』 八島智子教授退職記念論集.

・西田理恵子 (2023). 外国語学習者エンゲージメントの基本的概念：主体的学びへの導き. 応用言語学における理論と実践 - 研究と教育を通して -. 大阪大学大学院言語文化共同研究プロジェクト 2022. 大阪大学人文学研究科. OUKA.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Nishida, R. (2024). Exploring students' engagement, L2 Grit, enjoyment and L2 anxiety in CLIL in the Japanese context. The 9th IAFOR International Conference on Education in Hawaii. Online.

・Nishida, R. (2024). Exploring Japanese junior high school students' engagement, L2 grit, enjoyment and L2 anxiety. Yashima T Seminar. Osaka University.

・Nishida, R. (2023). Japanese University students' engagement, enjoyment, and anxiety in English learning. Motivation SIG in Japan. Osaka University.

・西田理恵子・高木智記 (2023). 中学生英語学習者におけるエンゲージメント、動機づけ、社会的要因に関する実証研究. 外国語教育メディア学会関西支部. 京都大学.

〈研究助成〉

・2021 年度～2024 年度 (代表) 「中学校英語教育における学習者と教師の動機づけを高めるメカニズムに関する実証研究」 科学研究費助成金 基盤研究 C (21K00759).

・2020 年度～2024 年度 (分担) 「Emotional intelligence as a mediator between positive and negative emotions and neuro-cognitive performance among Japanese EFL learners」 科学研究費助成金 基盤研究 C (20K00761), マキユワン麻哉 (早稲田大学) (代表).

〈調査活動〉

・枚方市長尾中学校の協力のもと、中学校 1 年生から中学校 3 年生を対象に中学生のエンゲージメントと動機づけに関する調査を行っている。

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・2023 年 9 月 3 日 (日) : 科学研究費助成金基盤研究 C 特別講演会企画・動機づけ研究会, ZOOM 特別公演企画. Rieko Nishida (大阪大学), Dorota Zaborska (大阪大学), Naoko Kojima (立命館大学), Haruna Fukui (近畿大学) による発表を主催・運営.

・2024 年 3 月 6 日 (水) : 科学研究費助成金基盤研究 C 特別講演会企画 Professor Ema Ushioda's special talk (University of Warwick) を招聘し、ZOOM 特別講演会企画を実施した。主催・運営.

・2024 年 3 月 10 日 (月) : 八島ゼミ特別発表会. 西田理恵子 (大阪大学), 出口朋美 (近畿大学), 西岡麻衣子 (京都産業大学) を招聘し、特別発表会を実施した。大阪大学人文学研究科. 主催・運営

[その他の活動]

〈管理運営〉 人文学研究科学術推進委員会委員、人文学研究科国際連携委員会委員、国際教育交流委員会委員長、サイバーメディアセンター兼任、設備・施設マネジメント委員会、研究企画推進委員会委員

〈学会活動〉 The IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2024). 国際学会・査読員、Motivation Sig. in Japan (動機づけ研究会) 主催・運営

〈社会貢献活動〉

・2024年11月25日、第9回箕面市イングリッシュエクスプレッションコンテスト、箕面市教育委員会、コンテスト審査員・コメンテーター

・2024年1月26日、山田真実氏「日本でドイツ語を学ぶ大学生のWillingness to Communicate: 異文化間能力の育成を目指して」関西学院大学 博士論文外部審査員

西出 佳詩子 (NISHIDE Yoshiko) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育方法論 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (ドイツ語) I・II

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語教育における協調学習、専門分野の教育を支える言語変種「学術ドイツ語」の習得、*Leichte Sprache* (やさしいことば) で書かれたテキストの分析と受容、ドイツ語教育における「読む力」の育成

〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ語教育部会、ドイツ文法理論研究会、阪神ドイツ文学会、大学英語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

・「新刊紹介 Bock, Bettina M./Pappert, Sandra (2023) *Leichte Sprache, Einfache Sprache, verständliche Sprache*. Tübingen: Narr Francke Attempto Verlag.」『ドイツ語教育』(28) 192-193.

・「専門分野の学びに向けたドイツ語の分析的読み -KH Coder を用いて学生の気づきを探る-」西出佳詩子, 林明子『人文研紀要』(104) 301-333.

・「学習成果発信型のリアルタイムオンライン授業-動画作成を取り入れたドイツ語授業実践-」『言語文化共同研究プロジェクト2022 「文化」の解読 (23): 文化とコミュニケーション』75-85.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Aktives Lernen durch Videoproduktion -im Hinblick auf den asynchronen Austausch zwischen deutschen und japanischen Studierenden. 第28回ドイツ語教育研究法ゼミナール 2024年3月12日

・「ドイツ語授業における能動的学習-動画作成を取り入れた授業実践を例に-」阪神ドイツ文学会第242回研究発表会 2023年12月9日

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉阪神ドイツ文学会編集委員

森 祐司 (MORI Yuji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉アウトドア言語文化研究

〈所属学会〉大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉

・マルチリンガル教育センター長

LEE SHZH-CHEN NANCY 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉

〈共通教育担当科目〉

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語スピーキング能力発達、スピーキング自己効力感、教員自己効力感、L2及びL3習得に関する研究

〈所属学会〉大学英語教育学会、全国語学教育学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Lee, N. S. C. (2023). Form-focused Instruction in Task-Based Language Teaching 『言語文化共同プロジェクト 2022 応用言語学における理論と実践 - 研究と教育を通して』, pp. 6-13. 大阪大学言語文化研究科.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Lee, N. S. C. (2023, Nov). Developing L2 Speaking Proficiency Through Peer Feedback. 49th Annual Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition. Online.

・ Lee, N. S. C. (2023, July). Effects of Weekly Grammar Instruction on EFL Speaking Development Over Time. AsiaTESOL. Online.

・ Lee, N. S. C. (2023, April). Effects of Receiving Weekly Peer Feedback on L2 Speaking Development. KOTESOL. Online.

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 21K00786 「Evaluating communicative adequacy in English speaking – development and validation of rater evaluation rubric」 2021 年度～2024 年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈学会活動〉

National Conference abstract reviewer

【理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座】

越智 正男 (OCHI Masao) 教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A・B (統語論)、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Content-based English)、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉格の交替現象、名詞句の統語構造、wh 構文

〈所属学会〉日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Ochi, Masao (2023) “Notes on Plural Elements in Japanese: a Labeling Approach,” 『言語文化共同プロジェクト 2022 自然言語への理論的アプローチ』, 1-10. 大阪大学人文学研究科言語文化学専攻.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Ochi, Masao. Plurality in Japanese and (Anti-)Labeling. Paper presented at The Workshop on Theoretical East Asian Linguistics 13 (TEAL-13), May 12, 2023, National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan.

・ Ochi, Masao. On the Syntax of Plural Elements in Japanese: A Labeling Approach. Invited lecture at The Chinese University of Hong Kong, September 23, 2023.

・ Ochi, Masao and Yuta Tatsumi. Numeral Classifiers in Japanese and (Anti-)Labeling. Poster presented at GLOW in Asia XIV, March 7, 2024, The Chinese University of Hong Kong.

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞句の構造と一致現象に関する比較統語論研究」 日本学術

振興会 (令和2年4月～)

〈国際共同研究実施状況〉

・日本学術振興会研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」、分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 (学内) 教育課程委員会委員、 (学内) 内部質保証専門部会委員、 (専攻) 大学院教務委員長

〈学会活動〉 関西言語学会編集委員会副委員長 (2020年4月～)、Journal of East Asian Linguistics Editorial Board

(2021年1月～)、日本言語学会評議員 (2021年4月～)

坂内 千里 (SAKAUCHI Chisato) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 史的言語研究 A・B、史的言語特別研究 A・B、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 中国語初級 I・II、中国語中級、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国の古い字書 (特に『説文解字』の注釈研究)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会

[研究業績]

〈論文〉

・『説文解字繫傳』に於ける指事について、『大阪大学大学院人文学研究科紀要』第1巻、77-98頁、2024年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員、紀要編集委員会委員

鈴木 大介 (SUZUKI Daisuke) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語副詞における形式と機能の関係、英語語法文法、英語史

〈所属学会〉 英語コーパス学会、英語語法文法学会、英語史研究会、大阪大学言語文化学会、関西言語学会、京大英文学会、近代英語協会、日本英語学会、日本英文学会、日本言語学会、日本語用論学会

[研究業績]

〈論文〉

・「現代英語における *worse* の文副詞用法をめぐって」『英語コーパス学会大会予稿集 2023』61-66頁、2023年9月

・「副詞が生む語順の多様性とその伝達的機能」吉田幸治 (編) 『話し手・聞き手と言語表現—語用論と文法の接点—』127-152頁、開拓社、2023年9月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「現代英語における *worse* の文副詞用法をめぐって」英語コーパス学会第49回大会 (30周年記念大会)、2023年9月10日、関西大学

・「発話内容を緩和する標識としての副詞 *perhaps*」日本語用論学会第26回大会、2023年12月10日、創価大学

・「volcanoes それとも volcanos? :-o で終わる語の複数形」第8回大阪大学豊中地区研究交流会、2023年12月8日、大阪大学

〈研究助成〉

・「英語副詞の形式と機能に関する共時的・通時的的研究」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (研究代表者) 課題番号: 22K13140

[その他の活動]

〈管理運営〉安全衛生委員会委員、図書委員会委員、英語部会議長

〈学会活動〉近代英語協会事務局編集幹事

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター非常勤講師

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ (テキスト分析論) A/B, デジタルヒューマニティーズ特別研究

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-Based)

〈学部教育担当科目〉デジタルヒューマニティーズ a/b, 学問への扉 (マチカネゼミ) 「ことばと文化のデータサイエンス: デジタルヒューマニティーズへの扉」

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2023』(大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻 言語文化共同研究プロジェクト 2023 成果報告書) 2024 年.

〈論文〉

・田畑 智司「確率論的トピックモデリングによる British classic fiction の「遠読」」『英文學研究 支部統合号』Vol. XVI (日本英文学会) pp. 288–297, 2023 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Tomoji Tabata, Using topic models to explore body language in Dickens's literature and journalism, Poetics and Linguistics Conference Annual International Conference 2023 (PALA2023): Green Stylistics Exploring Connections between Stylistics and the Environment, 12–15 July 2023. University of Bologna, Italy.

・Tomoji Tabata, Exploring body language in Dickens's fiction through topic modelling. 英語コーパス学会第 49 回大会 (設立 30 周年記念大会) 2023 年 9 月 10 日. 関西大学.

・Tomoji Tabata, Digital Humanities and Literary Linguistics: Using topic modelling to facilitate an empirical interchange of insights, 2023 English Language and Literature Association of Korea International Conference: Literary Inquiry as 21st Century Vocation: Reclaiming Aesthetics, Criticism and Pedagogy. (招待発表) 15–16 December 2023. Hanyang University, Seoul, Korea.

・田畑 智司 (司会・パネリスト) 「人文学林シンポジウム『デジタルヒューマニティーズの現在 (いま)』」一方法論的学際性にもとづくデータ駆動型の人文知の追求へ向けて一」2024 年 3 月 6 日. 大阪大学.

〈研究助成〉

・2018–2023 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「機械学習によるコーパス文体論分析モデルの提示とそれに基づく国際連携基盤の創成」研究代表者

・2022–2024 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究: 身体表現の機能の解明」研究分担者 (研究代表者: 安田女子大学・高口 圭輔)

[その他の活動]

〈学会活動〉 President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会会長

ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Performance Workshop)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 自然言語処理、デジタルヒューマニティーズ、コーパス言語学、ウェブシステム、日本語学習支援システム

〈所属学会〉 言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)、計量国語学会

[研究業績]

〈編著〉

・ベケシュ アンドレイ, ホドシチェク ボル, 仁科 喜久子, 阿辺川 武 『流暢性と非流暢性』(担当:分担執筆, 範囲: 第2部「記述言語学からみた(非)流暢性」第2章「コーパスと談話から見た接続表現の共起と(非)流暢性, pp. 51-77), ひつじ書房, 2024年2月22日 (ISBN: 4823412087).

〈論文〉

・ホドシチェク ボル, 阿辺川 武, 仁科 喜久子, ベケシュ アンドレイ 「学術論文形成を支える接続表現と前後文末モダリティとの共起構造—談話分析の視点から—」 『計量国語学』 34(1), 1-16, 2023年6月20日, 査読有り.

・Andrej Bekeš, Bor Hodošček, Nishina Kikuko, Abekawa Takeshi. “Distant Co-occurrence Patterns of Connectives: a Corpus Study of Formulaicity in Japanese”, *Acta Linguistica Asiatica* 13(2), 9-38, 2023年7月30日, 査読有り.

・Xudong Chen, Hilofumi Yamamoto, Bor Hodošček. “Translation-based connotation visualization for classical poetic Japanese vocabulary of the *Kokin Wakashū* ca. 905”, *Journal of Computational Literary Studies* 2(1), 1-32, 2024年2月16日, 査読有り.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Hilofumi Yamamoto, Bor Hodoscek, Xudong Chen. “Development of a dataset for comparison between predicate verb phrases in the *Kokinshū* and their contemporary translations”, *Proceedings of the 12th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2023), “Possibilities for Data-Driven Humanities”*, 64-67, 2023年9月21日, 国際会議, 査読有り, ポスター発表, オンライン.

・Xudong Chen, Bor Hodošček, Hilofumi Yamamoto. “Near-synonym noun-noun patterns in the *Hachidaishū* Dataset”, *Proceedings of the 12th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2023), “Possibilities for Data-Driven Humanities”*, 49-52, 2023年9月21日, 国際会議, 査読有り, ポスター発表, オンライン.

・ホドシチェク ボル 「古典から現代の言語データに基づいたデータ駆動型研究」 『人文学林 シンポジウム「デジタルヒューマニティーズの現在 (いま)」』 2024年3月6日, パネル発表.

・ホドシチェク ボル, 阿辺川 武, 仁科 喜久子, ベケシュ アンドレイ 「ディスコースからみた文末表現抽出」 『言語処理学会第30回年次大会発表論文集』 857-861, 2024年3月12日, ポスター発表.

〈研究助成〉

・基盤研究(C) 『アカデミックライティングのための接続表現と文末表現の共起分析と学習支援への活用』 (2023-2026) (研究課題番号 23K00629) 研究代表者

・基盤研究(C) 『歌ことばの歴史的変遷の特徴を解析するツール群とデータセットの開発』 (2023-2026) (代表: 山元啓史) (研究課題番号 23K00545) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局 CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者
〈社会貢献活動〉 大阪大学体育会アイスホッケー部顧問

三藤 博 (MITO Hiroshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学 (意味論) A・B、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習 (フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本フランス語学会編集委員

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ A・B (データ解析)

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-Based English), 総合英語 (Project-Based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計算言語学、コーパス言語学、新約聖書学

〈所属学会〉 Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[研究業績]

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究 (C) 「新約聖書デジタル写本における深層学習による写字識別キュレーションシステムの構築」 研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉 データビリティフロンティア機構兼任、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉 JADH 選挙管理委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究 A (統語論), 心理言語学 B, 言語情報科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Disjunctive Phrases の意味構造, N'-ellipsis の統語メカニズム, 疑問詞の L2・L3 獲得

〈所属学会〉 日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Miyamoto, Yoichi. Disjunction and the Type of Subject in the Kumamoto Dialect: A Pilot Study. 『言語文化共同研究プロジェクト 2021 自然言語への理論的アプローチ』, 大阪大学言語文化研究科, 49-58, 05/2023.
- ・ Tanaka, Eri, Masako Maeda and Yoichi Miyamoto. On Negative Island Effects and Exhaustification with Adjunct Nani-o in Japanese. Japanese/Korean Linguistics 30, CSLI Publications, 177-185, 09/2023.
- ・ Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Scope Properties of Parasitic Gaps in Adjunct Control in Japanese. Japanese/Korean Linguistics 30, CSLI Publications, 471-481, 09/2023.

- Ikawa, Shiori, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto. Japanese Clausal Argument Ellipsis and Embedded Clause Periphery. Proceedings of the Chicago Linguistic Society 58, Chicago Linguistic Society, 183-198, 10/2023.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- Maeda, Masako, Shiori Ikawa, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto. Copula Short Answers and Speech-Act Phrase in Japanese. Seoul International Conference on Generative Grammar 25 (oral presentation), 08/14/2023, Dongguk University.
- Oda, Hiromune, Yuta Tatsumi and Yoichi Miyamoto. Weak Heads at the Interface: A View from Temporal Adverbial Clauses. Workshop on Altaic Formal Linguistics 17 (oral presentation), 09/28/2023, National University of Mongolia.
- Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Relativized Minimality and Form Copy in Japanese. Generative Linguistics in the Old World (GLOW) in Asia XIV (oral presentation), 03/06/2024, The Chinese University of Hong Kong.

〈研究助成〉

- 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型: 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」日本学術振興会 (04/2021-03/2026)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 S: 研究分担者) 「人間の記号処理能力の基盤を探る一言語の形式と意味をつなぐ認知神経システムの解明」日本学術振興会 (04/2023-03/2028)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究代表者) 「「大併合」操作に基づく量化に関する比較統語論的研究」日本学術振興会 (04/2023-03/2026)
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究分担者) 「移動/線削除に伴う空所の認可条件に関する理論的・実証的研究」日本学術振興会 (04/2023-03/2026)
- 大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A+: 研究代表者) 「言語と論理的思考の発達に関する研究 II」大阪大学 (04/2021-03/2024)

〈国際共同研究実施状況〉

以下3件の研究助成のもと、ライブニッツ言語学研究センター、フンボルト大学、ミラノービコッカ大学と国際共同研究実施中。

- ERC Synergy Grant Horizon 2020 : Excellent Science (European Research Council : 研究協力者) 「Realizing Leibniz's Dream: Child Languages as a Mirror of the Mind」(01/2021-12/2026)
- 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型: 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」(04/2021-03/2026)
- 大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A+: 研究代表者) 「言語と論理的思考の発達に関する研究 II」(04/2021-03/2024)

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科長, 評議員

〈学会活動〉日本言語学会評議員, 日本言語学会編集委員, Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board,

その他, 国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読

〈社会貢献活動〉日本学術会議, 連携会員 (10/2023-09/2029)

山田 彬堯 (YAMADA Akitaka) 准教授

<https://www.ay.lang.osaka-u.ac.jp/publications>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語統計学 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Academic Skills)、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 理論言語学、言語統計学、コーパス言語学、デジタルヒューマニティーズ、発話行為、敬語、適用態、通時的言語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、日本語用論学会、計量国語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Yamada, Akitaka (2023) Honorificity. In *The Wiley Blackwell Companion to Morphology, Volume 2*, ed. by Peter Ackema, Sabrina Bendjaballah, Eulàlia Bonet, and Antonio Fábregas, 919-969. Oxford: Wiley-Blackwell.

・ 山田彬堯 (2023) 「『です』の分類 Elsewhere form としての丁寧語」 『自然言語への理論的アプローチ』, 59-58.

・ Historical Pragmatics using Space-State Models. *Proceedings of the 25th Conference of the Pragmatics Society of Japan*, 226-233.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Yamada, Akitaka (2024) Interaction between 2P pronouns and honorific allocutivity: a comparison between Japanese and Punjabi. Invited Talk for the Monthly Colloquium The Society of Modern Grammar, Jan 13, 2024.

・ Maeda, Masako, Shiori Ikawa, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto (2023b) A pronominal analysis of Japanese copular short answers. 言語科学講演会・研究拠点形成事業 1 2 月期ワークショップ, Dec 17, 2023.

・ Yamada, Akitaka, Eri Tanaka, Teruyuki Mizuno and Muyi Yang (2023) Toward a unified account of Japanese *toiu* constructions. 言語科学講演会・研究拠点形成事業 1 2 月期ワークショップ, Dec 16, 2023.

・ 山田彬堯 (2023h) 「丁寧語の類型論」, 第 167 回日本言語学会, 2023 年 11 月 11 日～12 日.

・ 山田彬堯 (2023g) 「埋め込み節のモードとトコロ節の意味論」, 第 41 回 日本英語学会, 2023 年 11 月 4 日～5 日.

・ 山田彬堯 (2023f) 「敬語の変化と状態空間モデル」, 阪大・人社系・統計 第 3 回統計実践ワークショップ, 2023 年 10 月 31 日.

・ Yamada, Akitaka & Taika Nagano (2023b) Not always introducing arguments: the syntax of high-applicative constructions in Japanese, *Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL) 17*, Sep 17, 2023.

・ Yamada, Akitaka (2023e) A modal approach to the Japanese high-applicative expression *-temoraw*, *Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL) 17*, Sep 28, 2023.

・ 山田彬堯 (2023d) 「通時的言語研究における統計手法について」 東北大学大学院情報科学研究科「言語変化・変異研究ユニット」主催 第 11 回ワークショップ (AA 研共同利用・共同研究課題理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求) 2023 年度第 3 回研究会との共催) 2023 年 9 月 24 日.

・ 山田彬堯 (2023c) 「日本語の否定過去丁寧形における方言間のバリエーション」 第 67 回 計量国語学会, 2023 年 9 月 23 日.

・ 山田彬堯 (2023b) 「日本語の適用形の統語論、意味論、そして、部分的合成性の成立」SPT “Summertime” workshop 2023, 2023 年 8 月 26 日.

・ Maeda, Masako, Shiori Ikawa, Akitaka Yamada, and Yoichi Miyamoto (2023a) Copular Short Answers and Speech-Act Phrase in Japanese, *The 25th Seoul International Conference on Generative Grammar (SICOGG) 25*, Aug 14, 2023.

・ Yamada, Akitaka (2023a) A Dynamic Generalized Linear Mixed-Effects approach to the constructional alternation among Japanese high-applicative expressions, *Complexity in Language Variation and Change 2023 (COMPILA23)* Aug 4, 2023.

・ 山田彬堯・永野大夏 (2023a) The ‘passivized’ high applicative construction in Japanese, 第 166 回 日本言語学会, 2023 年 6 月 17 日.

〈研究助成〉

・ 「コーパス言語学と実験言語学の統合：敬語の確率的構文交替を事例に」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2027 年 3 月

〈受賞〉

・ 日本英語学会大会優秀発表賞 (2023 年度)

- ・日本言語学会第167回大会発表賞
- ・令和5年度大阪大学賞

〈国際共同研究実施状況〉

日本学術振興会研究拠点形成事業-A. 先端拠点形成型-「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」(コーディネーター: 宮本 陽一教授)、プロジェクトメンバー、

〈主たる実施者となって開催した学会〉学会の名称、開催日、開催場所を記載する。

Logic and Engineering of Natural Language Semantics 20 (LENLS 20)、2023年11月18日~20日、大阪大学、ローカルホスト

〈主たる実施者となって開催した研究会〉研究会の名称、開催日、開催場所を記載する。

第3回統計実践ワークショップ、2023年10月31日、大阪大学

[その他の活動]

〈管理運営〉英語学会図書委員顧問、カリキュラム・オフィス委員、キャンパスハラスメント、人文学林 デジタルヒューマニティーズ・チームなど

〈学会活動〉計量国語学会理事

〈社会貢献活動〉放送大学 大阪学習センター 2023年度 第1学期面接授業 (2023年5月20日~21日)

〈市民向け講座・講演〉LCセミナー2023: 言語文化の展望「丁寧語研究に見る理論言語学・デジタルヒューマニティーズ・史的言語研究の融合」(2023年9月16日)

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A・B (音韻論)、理論言語学特別研究 A・B

〈学部教育担当科目〉英語2(C) (作文)、英語学演習Ⅲa・b(A) (豊中開講)、英語学演習Ⅳa・b(A)、英語学特別演習Ⅱa・b(B)、〈兼修〉英語学Ⅰa(G)、〈兼修(高度)〉英語学Ⅰb(G)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造 (特に、音節構造と強勢)

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会 (関西支部)、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈研究助成〉

・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 「英語における音韻的揺れについて」(22K00603、2022年度~2024年度) 研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員 (外国語学部・英語)

〈学会活動〉関西言語学会編集委員 (副委員長)、日本英文学会編集委員、日本音声学会音声学普及委員、『京都大学言語学研究』学外編集委員

〈社会貢献活動〉日本音声学会主催「英語音声学入門講座」実践セッション講師

ヤン ムイ (YANG Mui) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉形式意味論、語用論

〈所属学会〉日本言語学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Sudo, Yasutada and Muiyi Yang (2023) “Modal cumulativity”. Talk at Semantics Research Group at Keio. February 13, 2024, Keio University, Japan.

・ Kaufmann, Magdalen, Stefan Kaufmann, Teruyuki Mizuno and Muiyi Yang (2023) “Problem solving with Japanese 'beki””. Poster at Sinn und Bedeutung 28. September 8, 2023, Ruhr University Bochum (RUB), Germany.

・ Yang, Muiyi (2023) “Back to Boolean: Rethinking clausal conjunctions in attitude ascriptions”. Talk at Sinn und Bedeutung 28. September 7, 2023, Ruhr University Bochum (RUB), Germany.

・ Magdalen Kaufmann, Stefan Kaufmann, Teruyuki Mizuno and Muiyi Yang (2023) “Problem solving with Japanese 'beki””. Talk at Workshop on Semantics and Pragmatics. July 24, 2023, Hotel Komorebi, Shiga, Japan.

・ Yang, Muiyi (2023) “Back to Boolean: Rethinking clausal conjunctions in attitude ascriptions”. Talk at 2023 Tokyo Workshop on Computational and Theoretical Semantics. July 21, 2023, Ochanomizu University, Tokyo, Japan.

〈研究助成〉

・ 大阪大学 2023 年度若手研究者海外派遣支援プログラム ~GKP ネットワーク形成スタートアップ~ (研究代表者) 「複数表現の集団性に関する意味論研究—言語対照的観点から—」(2023/12-2023/12)

〈国際共同研究実施状況〉

・ 「可能世界を用いた複数性に関する意味論研究」(研究分担者) 英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの研究者と共同研究実施中

・ 「日本語の様相表現の意味論・語用論研究」(研究分担者) 米国コネチカット大学の研究者と共同研究実施中
[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化学専攻広報・社会貢献検討委員会委員 (2023/10~)

〈学会活動〉 国際学会要旨査読 (Semantics and Linguistic Theory)、国際専門誌査読 (The Linguistic Review)

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知意味論研究 A、言語認知科学論 B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級 I、II、フランス語中級、地域文化演習、フランス語中級選択

〈学部教育担当科目〉 フランス語学講義 a

[研究活動]

〈研究テーマ〉 メンタルスペース理論による日仏英時制研究

〈所属学会〉 日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、関西言語学会、日本英語学会

[研究業績]

〈主たる実施者となって開催した学会〉 関西言語学会、2023 年 6 月 10-11 日、オンライン

[その他の活動]

〈管理運営〉 人文学林学位部門部門長

〈学会活動〉 関西言語学会大会副委員長

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 認知言語学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 大森文子「鏡と水仙—シェイクスピアの *Sonnets* における隠されたレトリック」『レトリックと文法（言語文化共同研究プロジェクト 2022）』 pp. 1-14、大森文子編、大阪大学大学院人文学研究科、2023 年 5 月

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成金基盤研究 (C) (2020-2023) 「英語メタファーの認知詩学 II」 (研究代表者)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・ 言語文化レトリック研究会第 123 回例会、2023 年 5 月 13 日、人文学研究科言語文化学専攻 A 棟 2 階大会議室
- ・ 言語文化レトリック研究会第 124 回例会、2023 年 7 月 1 日、人文学研究科言語文化学専攻 B 棟 4 階大会議室
- ・ 言語文化レトリック研究会第 125 回特別セッション、2023 年 11 月 18 日、人文学研究科言語文化学専攻 A 棟 2 階大会議室

[その他の活動]

〈管理運営〉 (学内) 図書館委員会委員、附属図書館総合図書館運営委員会委員、(専攻内) 図書委員会委員

〈学会活動〉 日本認知言語学会編集委員

小栗 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉 認知言語学研究 a (豊中開講)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 構文文法理論、認知言語学、語彙意味論、並列構造理論

〈所属学会〉 日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Kogusuri, Tetsuya “Can Heavy Verbs Be Light Verbs?: A Constructional Approach to the Transitive V ... Look Construction in English,” *Tsukuba English Studies* 42, 73-96.
- ・ Sperlich, Darcy and Tetsuya Kogusuri (2023) “Inanimate antecedents of the Japanese reflexive *zibun*: experimental and corpus evidence,” *Linguistics* 62(2), 323-347.
- ・ 小栗哲哉 (2023) 「N をする」構文の多様性と語彙情報の役割—動詞派生名詞を中心に— 岸本秀樹・臼杵岳・于一楽 (編) 『構文形式と語彙情報』, 27-51, 開拓社
- ・ 小栗哲哉 (2023) 「現代日本語の「X-ぶり／-つぷり」に関する意味分析」『言語文化共同研究プロジェクト 2022 認知・機能言語学研究 VIII』, 51-74.

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、学内科研費相談員

〈学会活動〉 関西言語学会編集委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語認知科学論 A (Language and Cognitive Science A)

〈共通教育担当科目〉 フランス語中級 (Intermediate French)

〈学部教育担当科目〉 フランス語 3 (French3)、フランス語 15 (French15)、フランス語学講義 a (French Linguistics a)、フランス語学講義 b (French Linguistics b)、フランス文化演習 IVa (French Culture IVa)、フランス文化演習 IVb (French Culture IVb)、学問への扉 (A Door to Academia)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス語学、言語学

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「談話解釈における時況節 *alors que* 節の機能」 『時空と認知の言語学XII』 言語文化共同研究プロジェクト, 20-29.

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本フランス語学会編集委員、日本フランス語教育学会理事

田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語認知科学特別演習 A・B、認知意味論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉 英語学概論 a, b、英語学講義 a, b、英語学特別演習 IIIa, b、英語 1A、英語 1B

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語類型論、認知言語学、ユピック・エスキモー語と英語の対照研究、認知音韻論

〈所属学会〉 国際類型論学会、アメリカ言語学会、日本言語学会、日本英文学会

[研究業績]

〈論文〉

松浦幸祐・田村幸誠 (2023) 「方言アクセントの習得プロセスに関する考察—東京式アクセント話者による大阪式アクセント習得に着目して—」『第4回国際シンポジウム 日本語教育と日本研究—世界の潮流とベトナムの実践』 249-268.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ [Tamura, Yuki-Shige](#) and Kosuke Matsuura (2023) "Two Barriers for Osaka Japanese Learners: A Usage-Based Phonology Perspective," The Chicago Linguistic Society 59, at the University of Chicago, 2023 年 4 月 28 日.
- ・ 田村幸誠 (2023) 「レヴィ=ストロースからみた認知言語学：フィールドワークの反省と Women, Fire and Dangerous Things」 言語文化レトリック研究会第 123 回例会, 於 大阪大学, 2023 年 5 月 13 日.
- ・ 田村幸誠 (2023) 「プロファイルからみた文法化 (grammaticization) と音韻化 (phonologization)」, 日本英文学会九州支部大会 (第 3 部門 英語学 シンポジウム・パネリスト), 於 宮崎大学, 2023 年 10 月 14 日.
- ・ 松浦幸祐・田村幸誠 (2023) 「方言アクセントの習得プロセスに関する考察—東京式アクセント話者による大阪式アクセント習得に着目して—」, ハノイ大学日本語学部第 4 回国際シンポジウム「日本語教育と日本研究—世界の潮流とベトナムの実践」, 於 ハノイ大学, 2023 年 10 月 25 日.

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金 交付年度 2018-2023 研究種目：基盤研究 (C) 研究

〈調査活動〉

- ・ 米国アラスカ州ベセル市にて科研によるユピック・エスキモー語の調査 (3 月 19 日から 29 日まで)

中寫 浩貴 (NAKAJIMA Hirotaka) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知レトリック論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フレーム意味論およびコンストラクション形態論に基づく英語語形成の研究

〈所属学会〉 日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈編著〉

- ・ 木戸康人、眞野美穂、三浦香織、森下裕三、森山倭成、永富央章、中嶋浩貴、白杵岳、依田悠介、于一楽 (著)、岸本秀樹 (主編)、眞野美穂、于一楽 (編) 『「英文法用語大事典」シリーズ1 文』、開拓社、2023年11月発行、ISBN:9784758913966 (執筆箇所: 第1章 文の構成 1.6, 1.7, 1.8, 1.9, 1.10)

〈論文〉

- ・ 中嶋浩貴 (2023) 「英語名詞由来 er 名詞の予備的考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2022 レトリックと文法』, 49-56.

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022年4月-2025年3月 (課題番号: 22K13137、研究課題名: 英語名詞由来 er 名詞の実証的・理論的研究: 構文とフレームの統合的アプローチ、研究代表者: 中嶋浩貴 (大阪大学))
- ・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 2023年4月-2027年3月 (課題番号: 23H00629、研究課題名: 百科事典の意味論に基づくレキシコンの研究: 大規模コーパスを用いた実証的研究、研究代表者: 松本曜 (国立国語研究所))

[その他の活動]

〈管理運営〉 設備・施設マネジメント委員、学生支援委員

〈学会活動〉 日本認知言語学会大会実行委員、関西言語学会運営委員、大阪大学言語文化学会委員長

早瀬 尚子 (HAYASE Naoko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知言語学研究 A/B、認知言語学特別研究 A/B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉 英語 1、英語 13、英語学講義、英語学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉 関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会 (International Cognitive Linguistics Association)

[研究業績]

- ・ 西原哲雄・中村浩一郎・松沢絵里・早瀬尚子 (共著) 『ブックレット英語学概説』開拓社 (2024.1.16) (pp. 60-125)

〈研究助成〉

- ・ 文部科学省 科学研究費基盤研究 (C) 「主観的事態把握から対人関係的機能の発達の多様性に関する多言語研究」 (No.18K00647) (平成30年度～令和5年度)

[その他の活動]

〈学会活動〉 理事・学会誌副編集委員長 (日本認知言語学会)、運営委員 (関西言語学会)

〈市民向け講座・講演〉 2023年度 LC セミナー司会